

# 伊能忠敬研究

史料と伊能図



二〇〇九年 第五五号

伊能忠敬研究会

浜名湖は図の西端部分に描かれている。米国議会図書館所蔵の大図のうちで数少ない、山野に彩色が施された着色図の一つで、その中でも最も美しい写図である。山野の着色だけでなく、米国議会図書館所蔵図ではほとんど省略されている知行所、領所の注記が忠実に写されているのが特色である。しかし、山を飾る木立は見られず、原図では屋根の連なりで表現されている村落が「黒抹」記号に変えられている点は一般的の議会図書館図と共通する。コンパスローデは輪郭だけで着色がない。

浜名湖は南端の今切口で遠州灘と通じる汽水湖で、湖面の面積は国内第十位だが、一見してわかるとおり、猪鼻湖（浦）のほか、引佐細江（北東端）・庄内湾（東岸、庄内半島で湖本体と区画）など、湖岸線は入り組んでいて、百キロをこえるその延長は全国第三位である。その湖岸を赤い測線が丁寧にめぐつている。浜松城下との間にある佐（左）鳴湖を含む湖岸が測量されたのは、文化二年（一八〇五）の第五次紀伊・四国沿岸測量の途上である。三月一六日（西暦四月一五日）浜松城下泊から二九日の新居宿出発まで十三泊という期間を周回測量にあてている。氣賀、新居両関所の役人との折衝を織り交ぜつつ、日々の測量はほぼ二手に手分けして着実に進む。東南端、弁天島の対岸にあたる宇布見村辺については「海岸道路悪く塩漬多二付、測量大二手間取」とあり、地図では砂浜の黄色が際立つ。弁天島と遠州灘沿岸は享和三年（一八〇三）の第四次東海道・北陸、浜松から北に向かい氣賀街道を御油へ抜ける道筋は文化五年（一八〇八）の九州第一回測量往路の測量による。伊能忠敬記念館に氣賀街道を描く一枚続きの大図がある。

鈴木純子（題字は伊能忠敬の筆跡）

浜名湖は図の西端部分に描かれている。米国議会図書館所蔵の大図のうちで数少ない、山野に彩色が施された着色図の一つで、その中でも最も美しい写図である。山野の着色だけでなく、

米国議会図書館所蔵図ではほとんど省略されている知行所、領所の注記が忠実に写されているのが特色である。しかし、山を飾る木立は見られず、原図では屋根の連なりで表現されている

村落が「黒抹」記号に変えられている点は一般的の議会図書館図と共通する。コンパスローデは輪郭だけで着色がない。

浜名湖は図の西端部分に描かれている。米国議会図書館所蔵の大図のうちで数少ない、山野に彩色が施された着色図の一つで、その中でも最も美しい写図である。山野の着色だけでなく、

米国議会図書館所蔵図ではほとんど省略されている知行所、領所の注記が忠実に写されているのが特色である。しかし、山を

卷頭

史跡探訪5 「伊能忠敬測量之地碑」

五年にちなんだ地名

忠敬先生の年賀状

富岡八幡宮で復元「伊能大図」フロア展

伊能ウオーカー〇周年記念の集い

岐阜で見つかった伊能測量関係史料

話題II

研修旅行「御手洗・中島・吳」

伊能大図総覧の地名と景観（九）

芳名録

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

研究ノート

伊能測量隊の銚子の止宿は醤油醸造家

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

伊能忠敬の詩について

佐倉「歴博」寄託柏木家文書

伊能忠敬測量の能率と安全対策か？

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

伊能忠敬の詩について

佐倉「歴博」寄託柏木家文書

伊能忠敬測量の能率と安全対策か？

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

伊能塾講座

伊能家とご縁があります

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

九州支部

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

平成二〇年度九州支部研修旅行

忠敬談話室

伊能忠敬

伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

例会案内

伊能忠敬

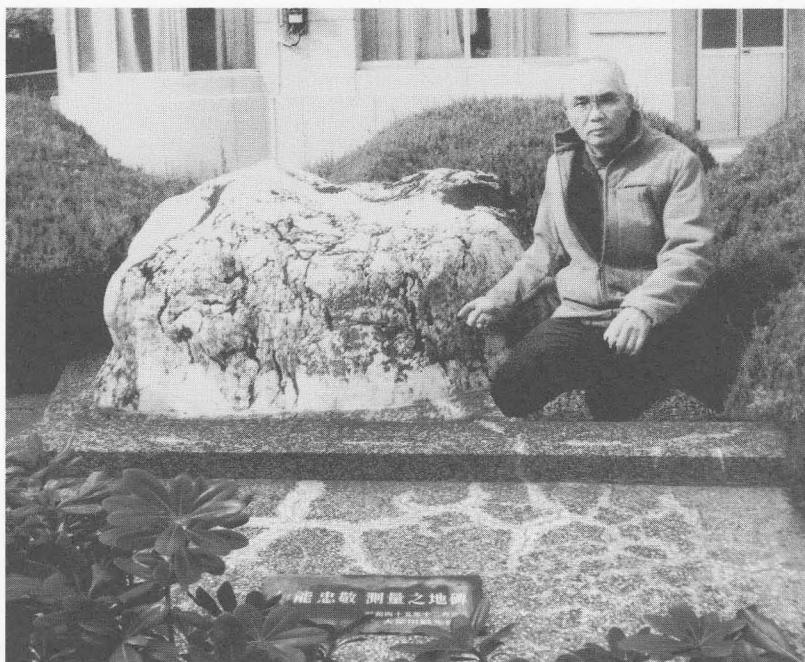
伊能忠敬研究（五）川崎まで歩く！その一

お便りから日々の話題お知らせ

表紙図解説 鈴木純子

新沢 編集部	中富 道利	伊能 陽子	矢能 彰	井上 辰男
義博	一郎	渡辺 一郎	星埜 由尚	斎藤 仁
仁	佐久間達夫	柏木 隆雄	伊能 陽子	編集部
七一	六四	三四	二四	九
七二	六四	三四	二四	三二
七〇	四八	三九	一	一

## 史跡探訪5 伊能忠敬測量之地碑



碑は長さ150cm、巾70cm、高さ70cmの自然石に「伊能忠敬測量の地」と右より彫り込まれている。位置は、緯度33度2分6.6秒、経度130度26分53.6秒

◇所在地 福岡県大牟田市筑町公園内 ◇設立者 大牟田観光協会  
◇設立年月日 一九七〇（昭和四十五）年十二月 ◇設立経緯 伊能忠敬測量隊が実測した地点に忠敬の偉業を後世に伝えるため碑を設置した。

### 伊能図の魅力にひきこまれて

#### 案内人

福岡県朝倉郡在住 井上辰男

私も測量業務に携わってはや、四十三年が過ぎた。最初に伊能図と出会ったのは、武揚堂の伊能中図の縮小版であった。伊能図は日本地図として、また美術品としての価値も充分あり、いつまで見ても飽きがこないものであった。その後、インターネットにて伊能忠敬研究会があることがわかり入会した。

江戸東京博物館の伊能図展を初めとして、東京国立博物館、伊能忠敬記念館、神戸市立博物館、松浦史料博物館等を見学したが、なかでも松浦史料博物館で見せていただいた伊能大図は、間近にルーペで見ることができ、墨の光沢・色彩のあでやかさが、強く印象として残っている。

伊能大図（模写を含む）もほぼ全面揃っている現在、これらを利用し、より詳しい伊能忠敬測量の足跡を探求して行きたいと思うこの頃である。

さて、今回紹介する記念碑は、九州第二次・伊能忠敬測量日記の文化九年一〇月一六日に「大牟田川土橋六間」の記述がある箇所で、福岡県の南部、炭鉱都市で有名だった大牟田市にあり、JR鹿児島本線大牟田駅より、国道二〇八号を久留米方面に約八〇〇m、徒歩で約一〇分の旧柳河藩と三池郡御領所の境、大牟田川沿いの公園内にある。

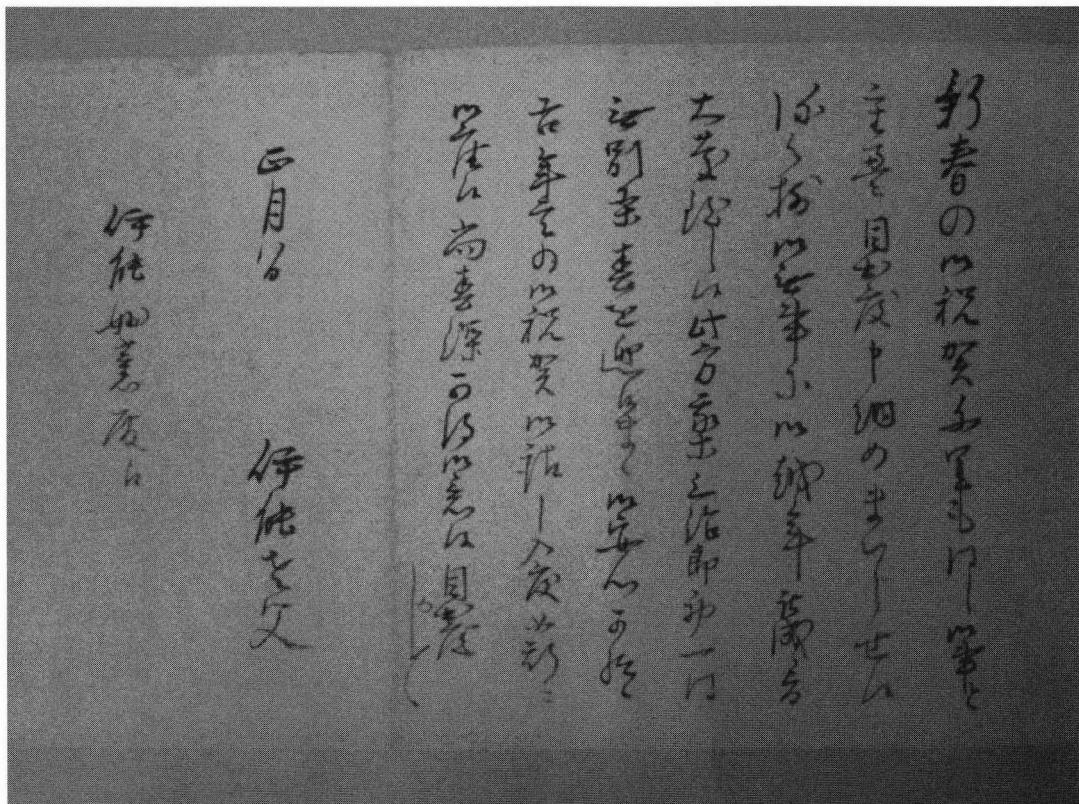
（いのうえ たつお・日本測量協会測量技術センター九州支所次長）

斎藤 仁（さいとう ひとし・学習院名誉教授）

2009(平成21)年  
丑(牛)に因んだ地名



## 丑年生まれ 忠敬先生の丑年の年賀状



「伊能忠敬書簡第2巻1（1月8日）」

伊能忠敬記念館蔵

新春の御祝賀千里も同じ御事と  
重疊目出度申納めまいらせ候  
弥御揃い御無事に御越年被成候旨  
大慶致し候、此の方我等三治郎初一同  
無別条春を迎候まゝ御安心可給候  
右年首の御祝賀御請申入度、如斯ニ  
御座候、尚春深可得御意候、目出度  
かしこ

正月八日 伊能老父

伊能妙薰殿江

\* \* \* \* \*

この年賀状は忠敬が江戸から佐原の妙  
薰あてに出したものである。この年賀の挨  
拶につづいて「・年を取七十二才三候而  
達者ニ相成申候、御悦可被成候」とあるこ  
とから、忠敬七十二歳の文化十四年（一八  
一七）丑年の賀状と考えられる。伊能忠敬  
は延享二年（一七四五）丑年、正月十一日  
の生まれ。存命ならば今年二六四歳の年男  
である。丑年生まれの人は「堅実で忍耐強  
くマイペース、強情・頑固で時として激情  
に走る。内面に強い剛毅を秘めている半面  
細かい神経質な一面ももつてゐる」とのこ  
と。忠敬先生の性格を言い当てているだろ  
うか。（なお会報第35号に「忠敬の年賀状  
—文化十年正月二日—藤岡健夫氏蔵」が掲  
載されています。併せてご覧ください。）



## 「伊能ウォーク10周年記念の集い」開催

二〇〇九年二月二一日（土）午後一時、東京・両国の江戸東京博物館に四〇数名の元伊能ウォーク隊員が集まつた。

一九九九年一月二九日に江戸東京博物館を出発してから一〇年が経過

したことを見た機会に、当時の関係者が集い、思い出話などに花を咲かせようと企画されたもの。一泊二日の日程で行われた。

当日は江戸東京博物館に午後一時に集合、新沢義博隊員が一〇年間大切に保存していた「平成の伊能忠敬 ニッポンを歩こう」の横断幕を掲げて日比谷公園までの一〇キロをウォーキングした。一〇年ぶりのウォーキングを楽しんだ後、午後四時から虎の門パストラルで記念パーティーを開催。翌日は一〇数名が東京駅に集合してバスで佐原の伊能忠敬記念館を訪問した。本会会員でこの催しに参加したのは伊能洋・陽子夫妻をはじめ、新沢義博、大庭功、中山翠の各氏。参加者の一人、大庭功さんは、当日の様子を次のように述べている。

大庭「私はウォーキ隊を先導する車の運転を担当しました。伊能ウォークの大きなシンボルマークをつけた派手なワゴン車で一車線規制が行われている大通りを注目を浴びながら進みました。沿道の声援に窓を開けて手を振つて、晴れがましい気持ちでした。ウォーク隊よりも一足先に会場に着き、集団を出迎えて、満足感がありましたね。韓国の金さんが現在の勤務地ベトナムから参加されたことが印象的でした。ウォーク後のパーティーでは、『伊能ウォーク』以来初めて会う人もいて、「いやあう！」という感じで、にぎやかに交歓することができました。また、「新ちゃんトラック」で名を馳せた新沢義博さんは一〇周年の集いでもコースリーダーや司会を務め、大活躍でした。



10年ぶりのウォーク隊 横断幕を前に記念撮影

金井三喜雄氏(元朝日新聞社)撮影

# 飛騨における伊能測量が明らかに —岐阜県歴史資料館で史料保存—

大前家文書（下呂市萩原町）

## 伊能本隊の足跡を高山陣屋に報告

このほど、岐阜県歴史資料館で保存されている文書のなかに、伊能測量に関する資料が保存されていることがわかった。当資料館歴史資料部担当監・河井信幸氏から伊能家あて手紙で連絡があつたもの。

河井氏によると、岐阜県歴史資料館で保存されている大前家文書（岐阜県下呂市萩原町）の史料を研究している大前家文書（岐阜県下呂市萩原町）の史料を研究している資料館勤務の小川敏雄氏（元岐阜県歴史資料館長）と、歴史資料部長の田添好男氏が、伊能忠敬に関する史料を発見し、当時の忠敬の動きを明らかにした。史料は伊能忠敬に関する内容を高山陣屋（飛騨地方を治めていた幕府の代官所）に提出した報告書の控だということである。このような貴重な史料が岐阜県歴史資料館に保存されていることがわかったことに河井氏は忠敬ファンの一人として感動し、報告するためにお手紙をくださったとのこと。氏はこれを機に、忠敬の業績を県内に広めていきたいと考えている。

史料の発見者のうち小川氏は発見の後、この史料を使つて忠敬が飛騨の測量に来たことを紹介する稿を書き、新聞に掲載された。また、田添氏は「授業に仕える史料撰」として県内の小中学校に電子メールで配信し学習に役立てる取り組みをした。手紙に添えられた各氏の著作を以下に紹介させていただく。

歴史資料部部長田添好男氏執筆

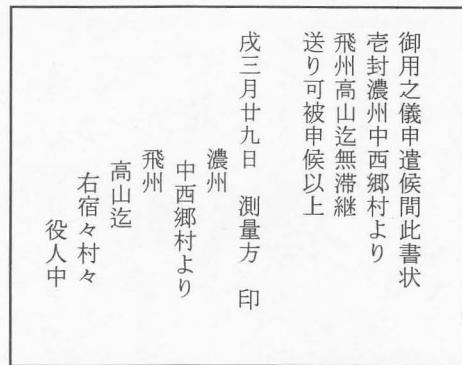
## 「授業に使える史料撰」NO. 23より抜粋

【解説】伊能忠敬は第八次測量中の文化十一年（一八一四）、美濃から飛騨にかけて県内の主な場所を測量した。今回発見された史料は、その際に伊能側から出された「先触」（史料1）、ならびに測量隊が中呂村を通過した際に村役人が記録し、高山陣屋に提出した報告書の控「中呂村書上書」（史料2）である。

【史料1】史料1には「御用（測量）のことについて言い渡すので、この書状一袋（袋の中に何通かの書状が入っている）を美濃国中西郷村（現岐阜市）から飛騨国高山（の各村や宿）まで滞りなく引き継ぎ送ること」と記されている。伊能ら測量隊一行は、向かう先の村々で測量が円滑に行われるよう、史料1のように「先触」を出し、添付の書状で宿泊場所や食事の内容・観測に適した場所などについてあらかじめ準備するよう命じた。文化十一年の測量では、伊能ら十五名は、加納を出立した後二手に分かれて測量した。当初、伊能の本隊は苗木・福岡・加子母・下呂・小坂・久々野を通り、高山を経て野麦峠から信州の木曽福島へ向かい、別隊は、八幡・金山・下原から下呂・高山に入り、高山から旗峰・平湯を通り信州松本へ向かう予定であつたが、別隊も高山から本隊と共に野麦峠へ向かつた。測量速度は一日平均三里であつたといわれるが、星の観測を伴う測量であつたため、天候によつて日程はたびたび変更された。



史料1：測量方飛州村々廻村一件



【史料2】史料2は測量隊が中呂村（現・下呂市萩原町）を通過した時、村役人が残した記録である。これによると、中呂村を通過したのが文化十一年四月十四日であり、測量隊員の氏名の中に伊能勘解由とあることから本隊であることがわかる。また測量隊が使用した道具として、竹竿・縄・方位盤・象限儀などがスケッチされており興味深い。伊能ら測量隊は、日本全国をくまなく歩いてまわりながら、こうした道具で距離や緯度・経度などを測定していたのである。ちなみに、伊能らが測定した高山（三之町五丁目）の緯度は、36度8分30秒である。現在の2万5千分の1の地形図では36度8分36秒であるから、伊能らの測定がいかに正確であったかがわかる。

（「授業に使える史料撰」 NO. 23より）



史料2：「中呂村書上書」

元岐阜県歴史資料館長  
小川敏雄

伊能忠敬、

伊能忠敬は日本で初めて全国を測量し実測地図【大日本沿海沿岸（よ）地図】を作成した人です。その経歴はちょっとと変わっていて、一七四五年（延享二年）に上総国（かずさぐに）の名主さきのくに現千葉県の名主の家に生まれ、十七歳の時に下総国（しもうさのくに）の伊能家へ婿養子に入ります。家業の酒造業に励み伊能家を盛り立てますが、五十歳の時に

時に隠居をして家督を長里に譲り、自らは江戸へ出て幕府の天文・方高橋時(よしと)に西洋曆學を学びました。一八〇〇(寛政十二年)閏四月には、至時の依頼を受け幕府の許可を得て奥州街道から蝦夷(えぞ)地太平洋岸の測量に出かけて地図を作りました。その精度の高さが幕府に認められ、やがては幕府の命を受けて全国測量を進みました。

めることになります

大前家文書(岐阜県歴史資料館蔵)に描かれた測量器具。  
右からほどん、鯨縄、苧縄、方位盤、象限儀

1996-1997 学年第二学期期中考试

「このたび西国  
筋国々の測量を仰  
せ付けられ、四月  
一日に濃州加納を  
出立して美濃路上

それより中山道を通て苗木までは測量を行わない。苗木から下呂、高山、野麦、寄合渡(これ以降は長野県)、八無原

一八一四（文化十二年）、この忠敬が飛驒にやって来ました。三月二十九日に伊能勘解由（かけゆ）隱居（いんきゆ）後の通称（のなまえ）の名前で飛驒郡代樹原（きはら）小兵衛（こひょうゑ）の用人（そとうにん）あてに書状（しょじょう）を送つています。

一八一四（文化）

（やぶはら）までは測量を行い、それより測量を行わないで洗馬（せば）へ行き、松本、青柳、善光寺までは測量を行ふ。宿泊所では夜公に星の測量を行ふから、測量器を据えるために南北見晴らしの良い場所を十坪ばかり用意してほしいこと、雨天等により逗留（とうりゅう）であること、宿代は定めの通り払うが食事はあり合わせの口一汁一菜のほかは必要ないこと

ました。緯度は三十六度八分三十秒、経度は東一度三十二分(ここを零度としている)ということでした。このうち緯度については現在の二万五千分の一地形図における同地の実測値が三十六度八分三十六秒であるのとほとんど変わらず、精度の高い測量であ

「一汁一菜のほかは必要ない」と書きました。なども書き添えています。中村名主十四日には小坂に入り、中村名主大前久左衛門に入り、左衛門はこの時の様子を高山陣屋へ報告していますが、それによると、忠敬たちは、長さ九尺の棒立てで、天日印に立てた棒立てなども書き添えています。

わらず、精度の高い測量であったことが分かります。

忠敬は九回にわたって全国測量を行いましたが、飛騨に来たのはその八回目で、四回目の一八〇三(享和二年)年、七回目の〇九(文化六年)年と二年の三回にわたって美濃にも来ていました。

伊能忠敬2隊の実際の測量経路と主な宿泊地。予定変更により文書の記載と異なる経路がある。

この時は、富士山周辺から九州へとび島子や屋久島をはじめ九州の島々や内陸部の海岸、中国地方内陸部等の測量を経て、美濃飛騨へ入つたものであり、飛騨の書状や先触は中西郷(岐阜市)から出されたものである。

元岐阜県歴史資料館長 小川敏雄氏執筆

岐阜新聞社『悠遊ぎふ』2009年2月号より

平成二〇年度研修報告 十一月三〇日（日）～十二月二日（火）

忠敬先生思い出の地—四国・山陽・しまなみ海道—

矢能彰

今年の研修旅行は、見学・研修先でお世話になる方々との調整や、瀬戸内島々の回遊を、しまなみ海道最後の橋、豊島大橋開通に合わせて再企画していただくなど、鈴木純子事務局長はじめ、幹事の方々の大変なお骨折りを戴いた。

第一日目

羽田→広島屋→福山・神辺 箱田良助生誕地→大山祇  
神社→向上寺→しまなみ海道→今治国際ホテル泊



十一月三〇日（日）快晴。富士山がすつきり見える。

旅行社の添乗員金指さんを含め一行十二名。定刻八時一五分に羽田を発つて広島空港に着いた。バスに乗り換えて「瀬戸内しまなみ海道」へ。二四人乗りの結構テラツクスなバスは約一時間の高速道路を快適に進む。山中の紅葉が美にきれい。私にとつては出発から、九月の例会で見せていただいた吳・入船山記念館所蔵の『浦島測量之図』の巻物の本物に接することができると、ワクワクの旅だった。

約一時間で箱田良助の誕生の地、神辺に到着。箱田良助はこの辺で生まれた。(伊能測量隊の隊員であり榎本武揚の父でもある箱田良助については研究会会報第五四号、西川治さん「伊能塾講座第一回」六三頁に詳細報告あり。これをご参照ください。)

神辺本陣は一七四六年、忠敬が生まれた翌年に建立された。現在も

当時のままで保存されており、敷地面積は約一、〇〇〇坪という。次に廉塾ならびに菅茶山旧宅を訪れる。廉塾は一七八一年頃に菅茶山が開いた塾である。菅茶山は神辺の東本陣（酒造業）に生まれ、京都で朱子学を学び、神辺に塾を開いた。全国から学生が集まつたという。実業家でもあり、伊能忠敬と面識があった。一九歳から三四歳の間に六回京都に行つてゐる。菅茶山は一七四八年に生まれ一八二七年に八〇歳で没した。



「福山付近で伊能測量隊は・・・バスの中で渡辺さんが足跡の説明。宿場のボランティアの方の説明で、大名は布団はおろか風呂やトイレ

までも行列に持参したとの話を聞き、神辺を後にする。

サービスエリアで食事休憩。尾道ラーメンなどお好みで昼食をとり、十三時三〇分出発。福山西インターからしまなみ海道に入る。右に尾道水道、尾道城などを望みながら、全部で一〇本の橋を渡つて今治に入る。しまなみ海道は来年で開通一〇年、瀬戸大橋は開通二〇年を迎えるそうである。四国、本州で、自動車も歩行者も通行可能なのははこの海道のみとのこと。橋から瀬戸内の島々を望む。因島には村上水軍の城跡がある由。生口島に向かうべく、次のインターで降りる。

生口島着。バスを降りて耕三寺、向上寺、平山郁夫記念館などを一時見学。平山画伯のシルクロード連作・駱駝が右向きの絵を見る。バスに戻ると星埜代表が両手にみかんの袋を提げて乗ってきた。一袋五〇〇円だったという。十五時発。レモンやみかんが実る山々を両側に眺め、美味しいみかんをいただきながらバスは南下した。

大三島の日本総鎮守大山祇神社を参拝。天照大神の兄神である。しまなみ海道の夕陽の写真を撮り、十七時過ぎ今治国際ホテルに入る。

## 第二日目

今治港→岡村島→御手洗→豊島大橋→上蒲刈島→呉・入船山記念館→

松山→道後温泉泊

十二月一日(月)快晴 ホテルから海が綺麗に見える。

八時三〇分、愛媛汽船のフェリー「棟方・水江・宮浦方面行」で岡村港へ。九時四五分に御手洗着。昨夕渡つた橋が、朝日に映えて見事である。数名の会員がデッキに出て撮影していた。

御手洗では、はじめに庄屋・市指定文化財「旧柴屋住宅」を訪れる。

御手洗は商業と色町で栄えた町。現在は高齢化率五〇%以上とか。この地区的自治会長今崎さん、女性ボランティアの明田さんの案内で御

手洗の街めぐりをする。八月の豊島大橋開通で訪問客が多くなった由。

江戸時代の色街を歩く。元遊郭の「若胡屋」は現・御手洗会館である。元大遊郭の建物の外観は殆どそのまま、その後地域の公民館的に利用、「おはぐろ事件」で悲しい死に方をした遊女の血痕の跡など、

何とも胸がつまる一角も見る。「金子邸」は桂小五郎と西郷隆盛が東征の途上、会談をした宿とのこと。地元の十四代目の時計屋さんの「新光時計店」を見学。一四〇年以上止まつていらない掛時計等、地方にこれだけの古時計収集と修復の技能を持つたご主人がおられるのに感服。

旧「乙女座」を見学。この島は今は島民約三〇〇人だが一八〇〇年代には一六〇〇人の住民がおり、うち一三〇〇人は遊女であった由。海路交通の拠点であったことが偲ばれる。地域の人々が近くの山上に数百人の花魁の墓地を作つたとのこと。淨土真宗のお寺大東寺を見学。

御手洗から下蒲刈に向かう。忠敬が泊まつた本陣が修復されている。昼食後、市民センター市立図書館に到着。立派な図書館・市民センターである。元入船山記念館長であつた井垣図書館長のご案内で、事前にご準備いただいた「入船山測量図」を見せていただく。図書館古文

書二万点の中から一九二三年に発見したもの。伊能大図と殆ど変らないものもある由。地図に描かれた山々が館長自身が撮影された多くの山と殆ど同じであると、写真と対比させてご説明された。館長の熱い思いに全員感動した。



この後、入船山記念館の「浦島測量図」を見学したが、夢中になつて聞き入り、地図にのめり込んだ。この研修は「官報 入船山 第七号」に印刷された「浦

島測量図」に魅せられて現物を拝見にきたのだが、和紙に描かれた現物は全く違う魅力と感服した。

伊能洋氏のご祖父・伊地知季珍海軍中将が吳鎮守府司令長官であったことから、修復された長官官舎に長官制服を寄贈されたお話などが記憶にある。

一五時二五分、吳中央桟橋発。ジエットフォイルで一六時五〇分松山港着。今夕のホテル道後温泉「椿館」で旅装を解く。

夕食時、明日同行していただく愛媛県立博物館学芸員の安永純子さんの蘊蓄あるお話を聞く。地元の忠敬足跡に造詣の深いのに感銘する。

### 第三日目

道後温泉→高浜→中島港→大浦・文化センター→中島港→道後・松山

観光→松山空港→羽田空港

十二月一日（月）快晴 高浜八時四五分、中島海運のフェリーで大浦の中島港に向けて出発。続けて三日目も快晴。瀬戸内海は気温二〇度近くで無風。九時に中島着。桟橋で研究

会会員であり忽那八幡宮の宮司である大宮様のお出迎えを受ける。忽那八幡宮は九〇〇年前に建立。大宮さんは元香取神宮の権宮司。忠敬さんが中島に測量に来て、丁度二〇〇年目の由。港から徒歩で近くの中島文化センターに移動し、所蔵の大島藩の中島地図を見せていただく。

この中島図の海岸線の一部に針穴がない砂浜部分などに、作成経路をめぐって会員間にも多少の議論があつた。



見学後、文化センター近く

の忽那八幡宮を参拝。宮司さんのお宅で小休止をさせていただいた。南北朝時代に懐良（かねなが）親王が島に三年間在住してい

た記録がある由。境内には千年の大楠もある。また島内に

約二〇の神社があり、宮司さんは三つの神社の神主さんを掛けもちとのこと。帰りには

お庭の檸檬を何人かがお土産

にいただいた。

十一時四五分、宮司さんのお見送りをうけて中島港を出発。十二時二五分フェリーで高山着。小型観光バスでうどん屋に一息つく。

十四時すぎに有名な道後温泉の建物付近で写真撮影など。再びバスで一路松山空港へ。空港を十六時三五分発、十七時五五分定刻に羽田着。

会員十一名の有志だけのこじんまりした研修旅行ではあつたが、銘々たくさんの思い出と収穫を得た二泊三日であつた。

（やのう あきら・（社）日本産業訓練協会・社員研修講師）



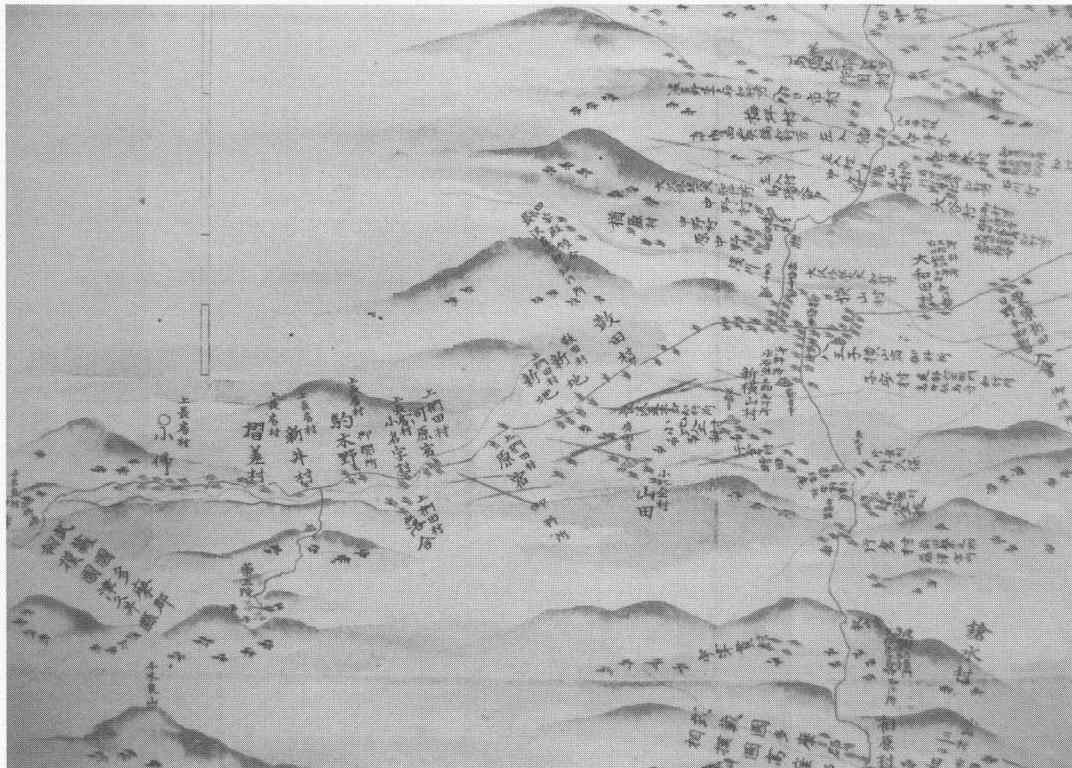
伊能大図総覧の地名と景観（九）

星埜由尚

八  
王  
子

八王子は、現在人口五〇万人を超えて、東京都西部の最大の都市に成長しているが、伊能測量当時も甲州街道最大の宿場であった。甲州街道は、第七次の九州第一次測量の帰途に測量し、第九次測量で、厚木から八王子、川越に抜ける測線を測っている。八王子横山宿と記されており、八王子横山十五宿と言われ、甲州街道に沿つて多数の町を連ねる宿場が形成されていた。甲州街道に沿う村は、甲州街道とは直行する方向に地名が書かれているが、八王子横山宿の地名は、甲州街道の宿場であるにもかかわらず、厚木への街道に直行する方向の文字列となっている。

八王子には、寺が多数描かれている。寺名をあげると、廣園寺（小比企村）、万福寺（小比企村）、斟珠庵（片倉村）、来光寺（片倉村）、妙樂寺（横山村）、極樂寺（横山村）、大善寺（横山村）、喜福寺（中野村）、觀音寺（新横山村）である。この中で、来光寺のみが一八七八年（明治十一年）に廃寺となつているほか、すべて現存している。来光寺は、古城跡と記されている片倉城跡にあつた住吉社の別当寺であつたが、廃寺となつて竜光寺という寺に合併された。これらの寺には、甍が描かれている。片倉城は、大江広元の子孫、長井道広という人物が室町時代に築城したと伝えられている。空堀や土墨が残り、片倉城跡公園となつている。



第1図 大図第90号 八王子付近



第2図 彩色地形図 八王子

上野原

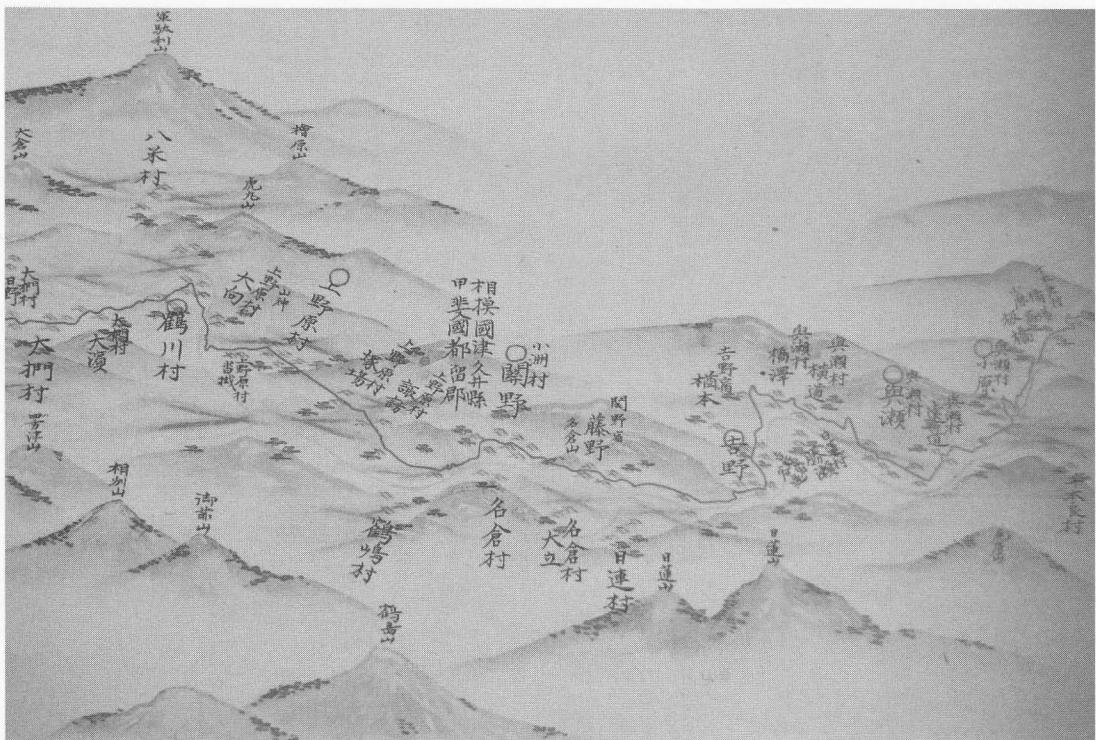
與瀬（与瀬）、藤野、上野原といった地名は、中央線沿線で育った私にとっては、遠足や野外学習で子供の頃から慣れ親しんだ地名である。

現在、相模川は、相模湖のあたりで上流は桂川、下流は相模川となる。

與瀬のあたりで川は大きく蛇行するが、日連村勝瀬と書かれ、盆地状に家並みの描かれているところが現在ダム湖の下に水没している。盆地状の地形の描き方と、河川の蛇行と相模湖の形が相似形になつてゐる。

日連、名倉、吉野、樺本、関野、鶴島、諏訪、塚場などの村落が地名とともに茶色に彩色され、家並みが描かれている。これらの地名は現存し、河岸段丘の上に農耕地とともに集落がみられる。相模川に沿つて典型的な河岸段丘が発達し、私も学生の頃地形学の巡検でしばしば訪れた誠に懐かしいところである。上野原は、なかでも広い段丘がみられ、上野原の市街地はその上に発達している。そのような河岸段丘の発達状況まで大図に正確に表現されているわけではないが、田畠を表したと考えられる茶色の彩色と筋交い様の模様が河岸段丘の発達状況を結果的に示している。伊能忠敬が地形学の知識を持つていれば、河岸段丘を上手に表現したのではないかと思う。

山名が多数記載されている。なかには同じ山名をもつ山が描かれており、それも近接している場合が多い。相州山、日連山、四方津山は、それぞれ二つずつある。なぜか不明である。



第3図 大図第98号 與瀬・上野原



第4図 彩色地形図 相模湖周辺

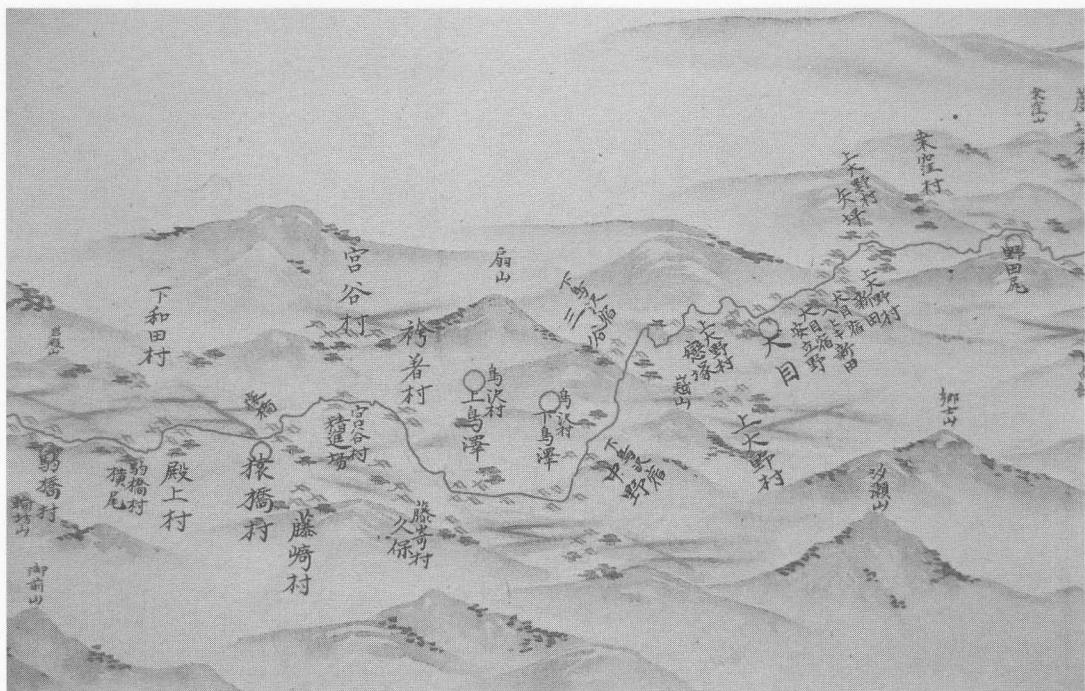
第5図は、上野原の西の部分の大図である。上野原から鳥沢まで、測線は、桂川沿いではなく桂川の北側の山に挟まれた地溝状の谷を通過している。現在中央自動車道が通過しているところに当たる。野田尻、葉窪(桑久保)、矢坪、新田、安立野(安達野)、犬目、戀塚(恋塚)、中野、鳥澤と現存する地名が測線に沿って記入されている。地形図を見る限り、測線即ち甲州街道は、桂川の高位の河岸段丘の上を山麓に沿つて通っていたことが大図と地形図を照合することによって知られる。下鳥澤宿三谷と出ているのは、地形図では山谷と記された集落に当たるものと考えられる。山谷は「やまだに」読むようなので、あるいは「三谷」は、「山谷」の写し間違いかかもしれない。

測量日記には、文化八年五月一日の項に「大月より駒場制札迄十六町四十八間、字横尾、殿上村、猿橋駅、又村。猿橋あり。長十七間、奇功。」<sup>ほど</sup>あり、大図にも桂川を測線が渡るところが描かれ、猿橋と注記がある。

御前山、岩殿山、扇山などの山名が記載されている。岩殿山、扇山は、地形図にも記載されており、このあたりでは顯著な山である。御前山は、地形図の該当する位置にはみられないが、地形図には周辺に多数の御前山の注記が見られる。

大月

大月と笛子峠を挟み甲州盆地の間の測線である。大月では、甲州街道の測線と河口湖方面の測線が分岐する。甲州街道は、第七次測量の帰路甲府から大月に向かって測量しているが、第八次測量では、往路に大山街道から御殿場を通り河口湖を通りて大月に設置した甲州街道の分岐点の杭(大)に繋いでいる。この杭に繋いだあと、甲府に向か



### 第5図 大図第97号 鳥澤・猿橋

い、富士川を南下している。

第七次測量では、笛子峠を越え、黒野田村追分で笛子川を渡った。幅一〇間(約一八㍍)と測量日記には書いてあり、大図にも桂川の最上流部で測線が川を横切つていて。阿弥陀海道と称する宿場<sup>がいと</sup>が描かれていて。阿弥陀海道は、かつて阿弥陀堂があり、谷地形を「垣戸」と呼ぶことに由来するとの説が大月市ホームページに解説されている。現在は、阿弥陀海と呼ばれている。笛子峠から大月までには、黒野田、阿弥陀海道、白野、中初狩、下初狩、上花咲、下花咲と宿場が続く。測量日記<sup>＊</sup>によると初狩は往古は初雁といわれ、聖護院大僧正道興<sup>＊</sup>の「今はとて霞を分けてかえるざにおぼつかなしや初雁の里」と刻める碑があると記されている。文明九年(一四七七)のことである。

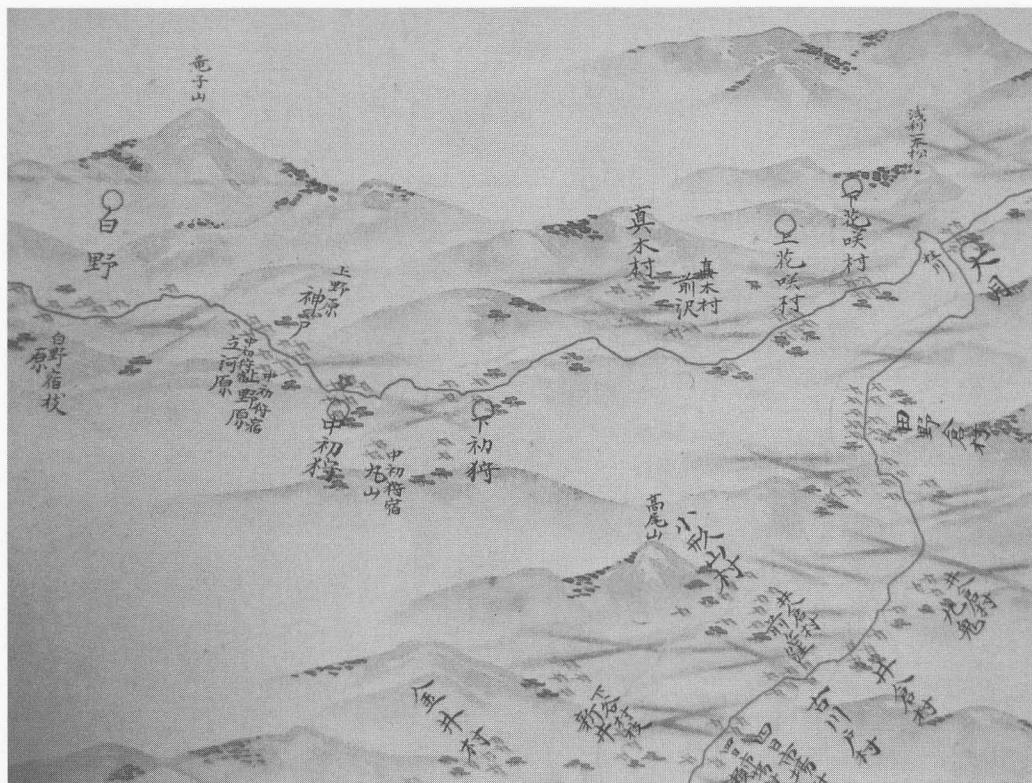
### 勝沼

勝沼は、ブドウの産地として有名である。伊能測量当時はもちろんブドウの生産が行われていたわけではないが、勝沼の周辺は、広く茶色の筋交い模様と彩色が見られ、田畑が甲府盆地の扇状地を広く覆つていたのである。甲州街道を行く測線に沿つて川が描かれている。これは、笛吹川の支流日川である。

勝沼の周辺の甲州街道に沿う村は、御料所、田安殿領分となつている村が多い。御料所は、測量日記には石和支配と記述され、石和に代官所があつたものと思われる。測量日記には、「矢橋松治郎御代官所即御役所石和街道より三町斗」<sup>＊</sup>とある。



第6図 彩色地形図 鳥沢付近



第7図 大図97号 大月・笛子峠

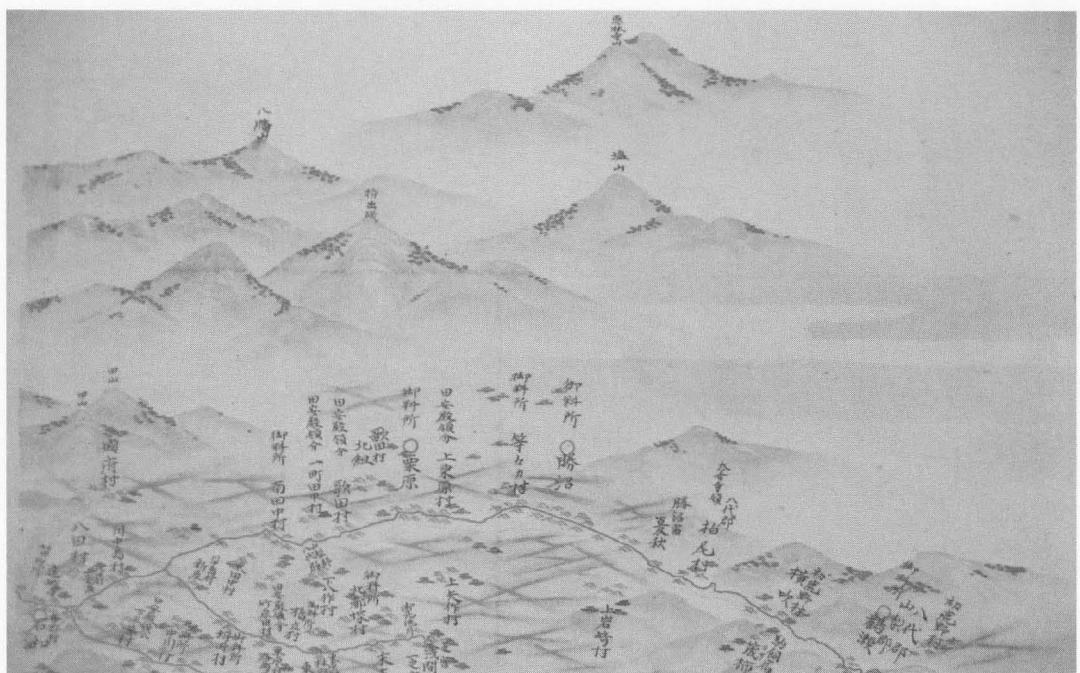
石和から富士吉田に向かう測線が分かれるが、測量日記には、富士追分と書いている。文化九年（一八一二）四月三十日、この富士追分から始めて勝沼まで甲州街道を測量している。すぐ遠妙寺を通過し、川中島村で一宮に向かう測線の分岐点に杭を打ち、一宮に向かう組と勝沼に向かう組に分けて測量した。勝沼に向かって、南田中村で日川を渡つているが、測量日記には二七間と書かれている。約五〇mの川幅である。栗原宿では大宮社御朱印七石升四合とあり、それぞれ大図には社名の記載はないが、甍がいくつか描かれており、これらの神社を示しているものと思われる。二斗、上栗原村では諏訪社御朱印二石、勝沼村雀宮御朱印四石升四合とあり、それぞれ大図には社名の記載はないが、甍がいくつか描かれており、これらの神社を示しているものと思われる。一宮の神前まで分岐した測線が達している。測量日記には、「一宮浅間大明神祭神木花咲耶姫命御朱印二三四石二斗余」<sup>\*</sup>と記されている。大図には、単に浅間社と書かれているのみで、村名は一之宮村となつていて、御先洗川と書かれた細流が描かれているが、御手洗川の誤りである。

翌日五月一日、勝沼から初狩まで測つてゐる。勝沼からすぐ先の柏尾には大善寺という寺があり、御朱印三十二石と日記に記されている。柏尾村は、大善寺領となつてゐるが、大善寺の名称は、大図の中には書かれていない。大善寺は、その本堂が国宝の指定を受けてゐる。鶴瀬宿には御関所ありと測量日記には記されていが、大図にはそのような記載はない。

大図には、惠林寺山、塩山、八幡山、指出磯、甲山といった山が描かれているが、塩山市街の背後に塩ノ山という小山があり、塩山はそれに当たるのではないかと考えられるが、その他の山名は、現在の山名に比定できない。



第8図 笹子峠



第9図 大図第98号 勝沼

## 甲府

第10図は、甲府の拡大図である。城郭が描かれ、御城と注記が振られている。城までの測線、長善寺に向かう測線、光沢寺に向かう測線、善光寺に向かう測線がそれぞれ分岐している。

甲府は、幕府領で甲府勤番の支配するところであった。甲府勤番支配は、追手と山手の二人制で高禄の旗本がその役に就いた。公儀の城であるから御城と書かれている。

文化九年（一八一二）四月二八日に甲府の市

中を測量している。測量日記によるとその日の行動は、以下の通りである。まず上飯田村の入口から測量を開始し、西青沼町（大図では西青沼村）で身延道との交点に（青）の杭を打つ。東に進み、柳町（大図には不載）にて（柳）の杭を打ち、一連寺まで測る。光沢寺の分岐には、（一）の杭を残して光沢寺まで測る。市中に戻り、柳町十字路に（十）の杭を残し、本陣、御城大手まで測り、瑞雲山長禅寺門前まで測る。長禅寺は、大図には長善寺と書かれている。酒折村（大図には坂折村）まで測るが、途中板垣村で（善）印を残す。\*大図を見ると善光寺まで分岐する測線が描かれており、この分岐点に（善）印を残したものと考えられるが、日記にはそれについての記載がない。そのほか、東光寺、能成寺についての記載があり、大図には、東光寺は描かれているが、能成寺については記載がない。長禅寺、東

光寺、能成寺ともに甲府五山<sup>まんざん</sup>に数えられる古刹である。一連寺は、測量日記によると御朱印一八〇石、境内七町四方とあり、現在の言い方でいえば六〇haにもなる大変広い境内であった。光沢寺は、御朱印二十石と記されている。（柳）印から板橋三間と測量日記には記述されているが、大図を見ると細い川が描いてあり、これを渡る橋が幅三間の板橋であったのであろう。

第10図 大図第98号 甲府





第11図 彩色地形図 甲府

## 身延

身延山には、第七次と第八次の測量において訪れている。第七次では、鰍沢から舟に乗り富士川を下つて波木井村に着き、無測にて身延山まで直行している。日記には、諸堂本房一覽とあり、境内を拝観した後、奥院へ登山し測ると記されている。しかし、大図には奥院までの測線は描かれていない。

身延には代官所があり、中村八太夫という代官の名前が日記には載



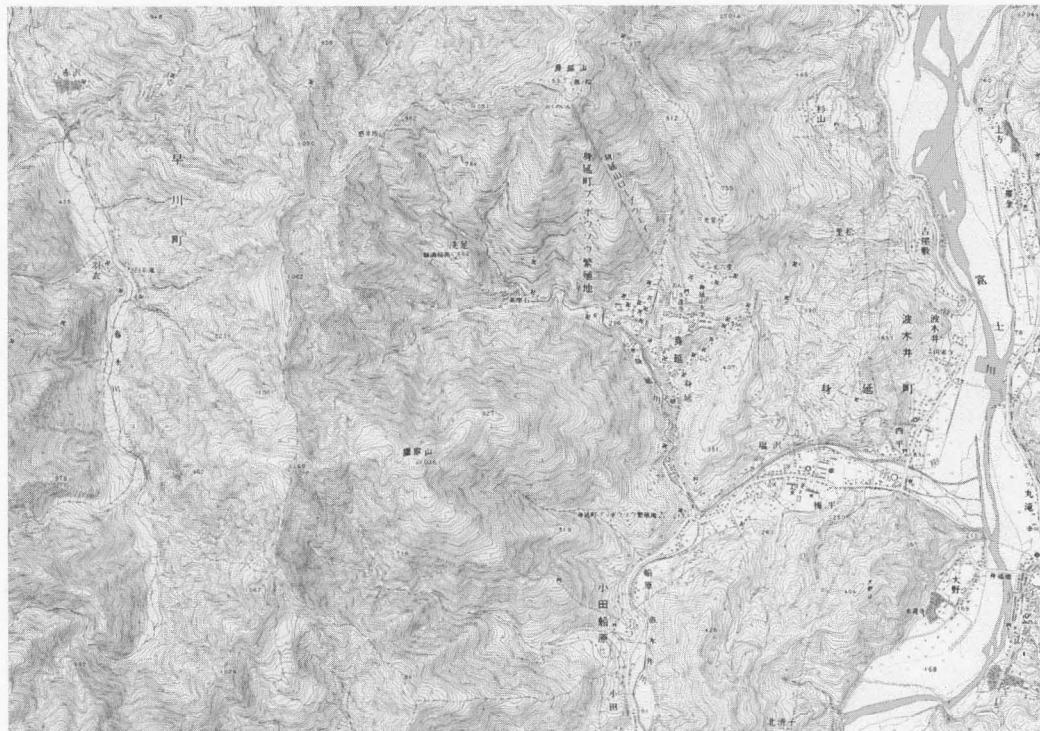
第12図 大図第100号 身延付近

つている。文化九年（一八一二）四月二六日の項を見ると、「早川河原十町水二十四間飯富村」\*と書いてあり、大図を見ると、富士川の支流早川が合流する地点が飯富村に当たり、富士川と早川の河原は黄色く彩色され、その幅も非常に広い。約1kmの河原と40m以上の川幅の早川を渡つたのであろう。また、鰍沢の近くの羽鹿島村で富士川を渡つているが五十四間としており、川幅約100mあつたことが知られる。第八次においては、市川大門から舟に乗り、第七次と同様に波木井村で下船している。身延山の大林房に止宿し、天測を行つてゐる。

身延山門前から始め、横根村まで測つてゐる。身延山から横根村までは富士川を離れ山中の谷を通つて、この間は富士川が描かれていない。身延町の門前町も家並みが測線に沿つて描かれ、山中の門前町の風情が表されている。

掲載した伊能大図は、すべて、国立国会図書館所蔵のものである。「伊能大図總覽」から転載した。彩色地形図は、（財）日本地図センターホームページから転載した。

（ほしの よしひさ・代表理事・（社）日本測量協会副会長）



第13図 彩色地形図 身延周辺

\*<sub>1</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記九州第一次測量篇の二」から引用した。

\*<sub>2</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記九州第一次測量篇の二」

\*<sub>3</sub>道興（永享二年（一四三〇）第12回 彩色地形図 身延周辺

\*<sub>4</sub>道興（永享二年（一四三〇）第12回 彩色地形図 身延周辺  
年）・大永七年（一五六七年）は、関白近衛房嗣（在職一四四五五年、一四四七年）の子で聖護院門跡となつた。東国を巡つて書いた紀行文『廻国雑記』が有名である。

\*<sub>5</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記九州第一次測量篇の二」から引用した。

\*<sub>6</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記九州第一次測量篇の二」

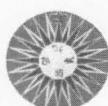
\*<sub>7</sub>道興（永享二年（一四三〇）第12回 彩色地形図 身延周辺

\*<sub>8</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記 九州第二次測量篇の二」から引用

\*<sub>9</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記 九州第二次測量篇の二」から引用

\*<sub>10</sub>武田信玄は、長禅寺・東光寺・能成寺・円光院・法泉寺を甲府五山と定めたと言われている。

\*<sub>11</sub>佐久間達夫「伊能忠敬測量日記九州第一次測量篇の二」から引用



伊能陽子

松原 一彦

まつばら かずひこ ( ? ) ( ? ) ( ? )

自らの眼を  
摩めりる  
松原一彦

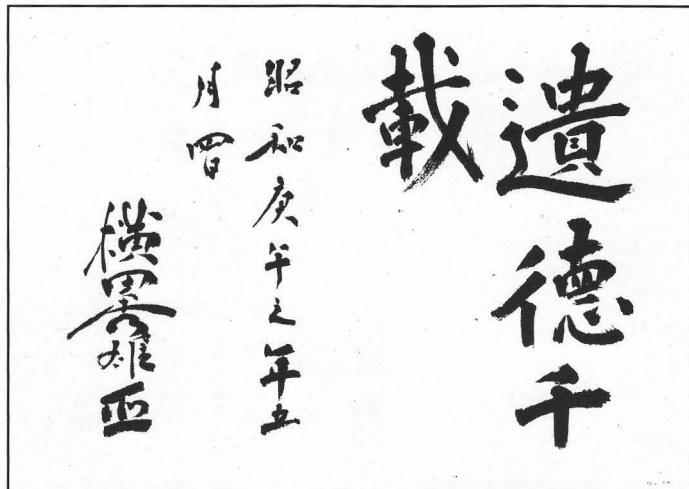
昭和二十五年の参議院議員選挙において（元衆議院議員）無所属で当選。第三次吉田内閣の時である。自由党の愛知揆一・泉山三六、日本社会党の江田三郎・加藤シズエなど私の記憶にある人々と同時期。正確な生没年月日は不明。大分県湯布院関係の記事に「町出身の松原一彦先生が子供の頃（明治中期頃）云々」と、また、昭和五年の総選挙での選挙違反事件に際し、「日本青年館理事松原一彦が選挙の肅正運動を起こすことを提案云々」とある。

揮毫年月日もないが、五三号の福士、緒方両氏の隣頁なので同年（大正十五年）と推察する。

（フリー百科事典『ウイキペディア』）

自ら心眼を  
潔めらる

松原一彦  
拝



横田 秀雄

よこた ひでお (一八六二~一九三八)

長野市松代の真田藩士の家に生まれる。明治六年、十二年小学校が開校となり、第一期生となつた。明治二一年帝国大學法科を卒業、判事になる。大正十五年、大審院長に任せられる。帝国学士院会員、明治大学総長。象山神社成立に功績。民法学者の権威。雅号は鶴山。なお、子息横田正俊は第四代最高裁判所長官になり、二代続いて裁判所の最高の地位に就いている。

(長野市教育委員会文化課)  
(フリー百科事典『ウィキペディア』)

※国指定重要文化財「旧横田家住宅」は江戸時代末期の松代藩の中級武士の住宅の特徴を良く残している。この家で育つた横田秀雄のほか秀雄の弟謙次郎は、鉄道大臣になり、姉の和田英は「富岡日記」の著者として有名である。住宅は見学できる。車は長野インターから、新幹線長野駅からバスで。\*松代文化施設等管理事務所 026・278・2801

(いのう ようこ・伊能忠敬研究会顧問)

横田秀雄  
花押

月四日  
昭和庚午之年五

遺徳千  
載

# 伊能忠敬測量隊の銚子の止宿は醤油醸造家

## 佐久間達夫

伊能測量隊の全国測量の日数は、三千七百五十四日を数え、海岸線が集落から離れていた所では、仮屋や会所などに宿泊したが、それ以外は庄屋や寺院に宿泊し、隊員が多い場合は、組頭・百姓・問屋などにも止宿した。したがつて、測量隊が宿泊した本陣と脇本陣とを合わせると、その数は相当数になる。

第二次の伊豆以北太平洋岸測量で、房総半島の最後の測量地であつた銚子では、飯沼村（現銚子市飯沼）で醤油醸造を嘗んでいた田中吉之丞家に、享和元年（一八〇一）七月十八日から二十六日までの九日間逗留し、測量などにあたつた。

資料一 伊能忠敬の測量日記 佐久間達夫校訂  
(享和元年) 原本 伊能忠敬記念館所蔵

七月十八日 晴天。朝六ツ半前井戸野村（現千葉県旭市井戸野）出立。中谷里村、是より海上郡、それより仁玉村、十日市場村、足河村、椎名内村、西足洗村、野中村、東足洗村、三川村、横根村、萩園村、行内村、平松村、飯岡村、下永井村、上永井村、小浜村、辺田村を経て銚子港、飯沼村東町着。止宿田中吉之丞。此夜雲間に少し測る。

七月十九日 朝晴。高神村、犬若岬より測量初め、飯沼村の内、黒生という所にて止、此日、午後白雨あり、七ツ半頃帰着。

七月二十日 朝晴、無程曇。予は病気に付き、郡藏、宗平、秀藏、慶助を遣わして、黒生より飯沼村の内、和田、伊貝根迄を測りしむ。

午後より大雨にて止。夜も又大雨。一昨十八日着の日、佐原伊能三郎右衛門、同平右衛門、繁藏、並に清宮亀太郎、津宮久保木太郎右衛門、遠路見舞に來たる。伊能七左衛門を同道にて見舞いに來たる。

七月二十一日 朝より大雨。

七月二十二日 雨。

七月二十三日 曇天。四ツ後、東町河岸より新生村、荒野村、今宮村川岸、常陸鹿島郡東下村波崎（常陸原という）へ渡り、方位、間数を測る。

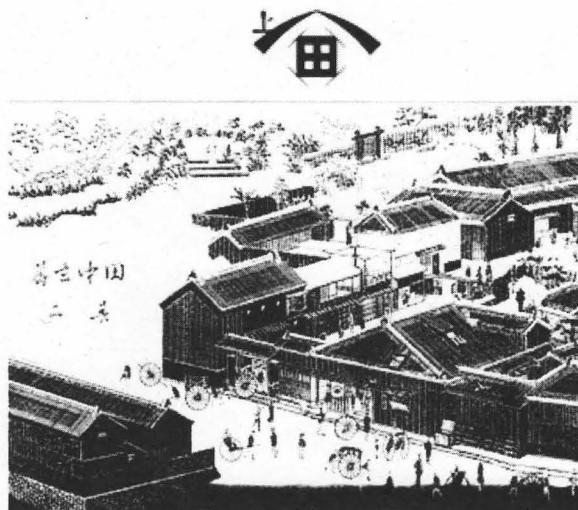
七月二十四日 朝より晴る。然れども海面濛氣おおく遠測ならず。午中、太陽を測る。津宮久保木太郎右衛門、武州、相州、豆州、両総州、房州の海辺地図の下書きを頼置。佐原より見舞のものもだんだん帰る。

七月二十五日 晴天、暁七ツ頃より今朝六ツ後迄雨。それより晴天。

七月二十六日 晴天、此早朝、日の出に犬若岬において、慶助、富士山を測る。着後、十九日より富士山の方位を測らんと日々手分けし、高きに昇り、遠くへ出しけれど、日々濛氣おおくして見えざりき。此朝、富士山の測得たり。そのよろこび知るべし。予が病氣も最早全快に及べり。此日、奥州小名浜迄先触出す。

七月二十七日 朝より晴。山海ともに濛氣おおし。六ツ半後、銚子港飯沼村出立。利根川を越えて常陸國鹿島郡東下村の内、波崎に到る（以下略）。

伊能測量隊が宿泊した「田中吉之丞家」は、江戸時代末期の銚子の



明治十年頃のヒゲタ醤油の工場 同社HPより

経済を牛耳っていた「田中玄蕃家」の分家である。田中玄蕃家は「ヒゲタ醤油」の醸造元として、早くから巨富を得。その名は諸国に知れ渡つていた。

宝暦三年八月十七日付の「銚子醤油仲内穀仕込高数」によると、  
田中玄蕃 二十一本。此石、しめて三百七石五斗。  
田中吉之丞 十三本。此石、しめて百九十八石五斗

と、記してある。

当時の銚子の人々の間では、「銚子で『サマ』のつくるのは、觀音様と玄蕃様」である、と、口づさんでいた(『銚子市史』)。田中吉之丞家は、玄蕃家の五世繁貞が隠居して一家を創ったのが始まりである。(「田中玄蕃氏の系譜」)

資料二

田中玄蕃氏の系譜

田中 真子識  
田中 栄一所藏

一世 玄蕃 ————— 二世 玄蕃 ————— 三世 玄蕃  
弘治二年没 永禄四年没 延宝五年没

四世 玄蕃 ————— 五世 玄蕃繁貞  
寛文九年没 享保十二年没

(隠居して吉之丞家を創る)

初代 郡良 ————— 一代 良貞 ————— 二代 重光  
宝暦十二年没 寛政十二年没 天保三年没

四代 憲吉 ————— 五代 清寧  
嘉永三年没 嘉永二年没

六代 憲久………  
慶応二年没  
十代 栄一

田中吉之丞家の家屋敷は、現在の銚子市東町の県道外川港線より南側一帯にあり、宅地二千八百坪、工場敷地二千坪という広大な土地を所有していた。伊能忠敬が宿泊したときの当主は、田中家の家譜から推測すると、三代重光の時で、測量隊は、ここで九日間逗留して、利根川の河口付近の測量や、筑波山、日光山、久慈山、富士山などの方位の測定、久保木清淵に地図の下書きの依頼、来客との面談などをしている。

資料三 大若岬よりの富士山の方位（山島方位記）

伊能忠敬記念館所蔵

造酒屋 三十軒ばかり。

・十二月一八日 台道村（現山口県防府市）

止宿 上田庄藏 造酒屋。

申 十九分二十五秒 中方位盤使用

申 十九分二十秒 甲方位盤使用

申 十九分〇秒 甲方位盤使用

○文化七年

・二月六日 下原村（現大分県国東市）  
福力屋儀兵衛 造酒家。

・二月十二日 府内（大分県大分市）  
橋本屋八左衛門 造酒家 七八百石醸造。

● 第八次測量日記 文化九年

・二月七日 盛徳村（現福岡県広川町）

中食 造酒家 喜多屋文藏。  
・八月九日 今宿駅（現福岡県福岡市）  
止宿 酒造屋長三。

・十月二日 恵蘇宿（現福岡県朝倉市）  
止宿 酒造屋 武作。

田中玄蕃・吉之丞両家が、銚子を代表する醤油醸造元であったように、佐原の伊能忠敬家も、一時期、永沢治郎右衛門家とともに、佐原での酒造高を競っていた。

「測量日記」にも、全国の次のような醸造家が記されている。

資料四 測量日記に記述されている醸造家

佐久間達夫校訂。

● 第五次測量日記 文化二年  
・三月二十五日 三ヶ日村（現静岡県浜松市）  
小池八左衛門、酒造をなす。

・十月六日 大石村（現兵庫県神戸市）  
造酒家多く、繁昌と見える所なり。

● 第七次測量日記 文化六年

・十月二七日 鏡村（現滋賀県竜王町）

止宿林三郎兵衛、造酒屋。

・十一月九日 西宮町（現兵庫県西宮市）  
西宮、酒造四十四軒。銘酒「白菊」小西善五郎造酒。

・十一月十日 住吉村（現兵庫県神戸市）  
酒造屋 吉田喜平治。

・大石村（現兵庫県神戸市）  
大石村 吉田喜平治。

次に測量隊の食事の献立であるが、伊能忠敬の出した「先触」では、「食事は、其所有合之品々に而、一汁一菜の外馳走がましき儀、決而

「被致問数候」と、記されている。一汁一菜とは、一種類の汁物と、一品のおかずの意であるので、転じて粗末な食事という意味にも解釈できる。

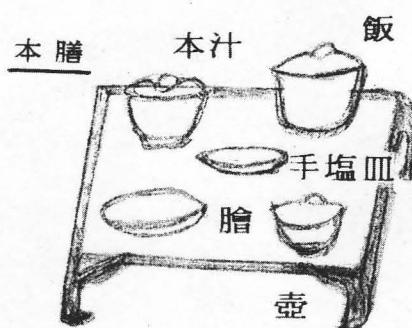
「測量覚」などによると、諸藩では先に宿泊した村々の様子を聞き合わせ、前の村以上の準備をし、一汁一菜どころか、一汁五菜くらいは普通であった。

江戸時代の「本膳料理」は、汁と菜の数によって一汁三菜、二汁五菜などの種類があり、汁と菜の数が多くなると、膳の数も増し、本膳、二の膳、三の膳、与（四）の膳、五の膳といった。

○ 本膳料理（一汁五菜）

- ・ 飯（めし）
- ・ 汁（しる）  
　　本汁は味噌仕立て。
- ・ 手塩皿（てしおざら）  
　　香の物などを盛り付ける。
- ・ 壺（つぼ）  
　　野菜の料理などを盛る。
- ・ 膾（なます）  
　　魚肉などを酢等であえた物を盛る。
- ・ 平皿（ひらざら）  
　　焼魚などを盛る。
- ・ 猪口（ちょく）  
　　和ものなどを盛る。

本膳料理



（『図説江戸料理事典』柏書房）

向付



旅先での測量隊の受け入れ態勢は、初期の段階では、伊能忠敬自身の申し入れによつて実現した事業であったので、隊員にとつて満足のいくものではなかつた。幕府の公式事業になつてからは、測量隊の送迎、宿泊、食事、測量手伝いなどに遗漏のないよう配慮したようである。しかし、そのために諸藩の測量付回役や村役人にとっては、経済的、精神的な苦労があつた。全国測量は、日本人総出員の事業であったといつても過言でなかろう。

（さくま たつお・伊能忠敬研究家）

## 研究レポート『伊能忠敬』(五)

### 富岡八幡宮から川崎まで歩く！（その一）

石 谷 春 香

### 第七章 富岡八幡宮から川崎まで歩く！

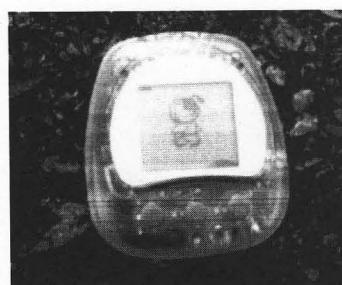
#### 一 一八〇一年五月四日 伊能忠敬の旅

伊能忠敬の第二次測量の第一日目のところを、もう一度見てみます。

一八〇四年（享和元年）四月一日（いまの五月一四日）朝よりくもり。五ツごろ（いまの八時ごろ）平山郡藏、平山宗平、伊能秀藏、尾形慶助、嘉助の六人で富岡八幡宮に参拝して出発。伊能家の関係者の人は品川まで見送り。「村田」という料理茶屋で昼食して別れる。

午前より小雨。八ツごろ（いまの二時ごろ）より中雨。七ツごろ（いまの四時ごろ）に川崎宿に到着。郡藏、秀藏、慶助は手分けして大森、羽田の海沿いを測量し、夕方、川崎で合流。川崎宿（いまの川崎市川崎区川崎）新田屋平三郎宅に宿泊。

忠敬は自宅→富岡八幡宮→品川→川崎と歩いています。私も歩いてみます！忠敬が歩いたのは一八〇一年五月なので、私は二〇六年後の同じところを歩くことになります。そしてその時の忠敬は五六歳、私は一二歳※なので、四四歳も私のほうが若いです。しかし地図で見るととても遠そうです。（※編集部注 二〇〇七年五月当時）



「平成の伊能忠敬」というゲームがあります。これは万歩計で、歩いた歩数で日本を歩くゲームです。この万歩計をもつて歩いてみてみます。

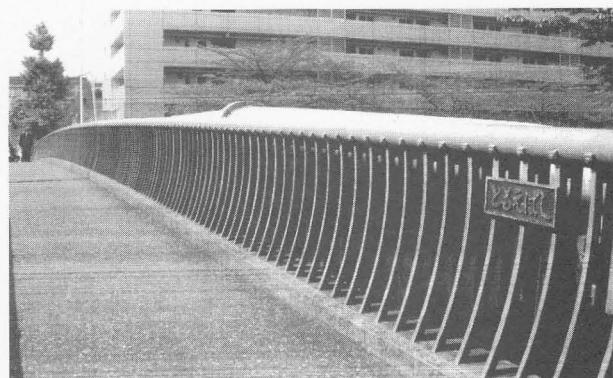
「伊能図江戸府内図（南部図）と2000年の東京」という本があります。大きな江戸府内図（南部図）が入っています。そして、現代の透明な地図もあり、かさねて見ることができます。比べて見るとやはり埋めたてのところがだいぶ違っています。大きな道は昔と同じです。

二 二〇〇七年五月四日 私の旅

二〇〇七年五月四日、晴れ。七時二五分、家を出発。万歩計の「平成の伊能忠敬」は持っています。大江戸線の「門前仲町駅」で降りて、富岡八幡宮に九時に到着。富岡八幡宮には以前に来ています。伊能忠敬の像もありました



巴橋



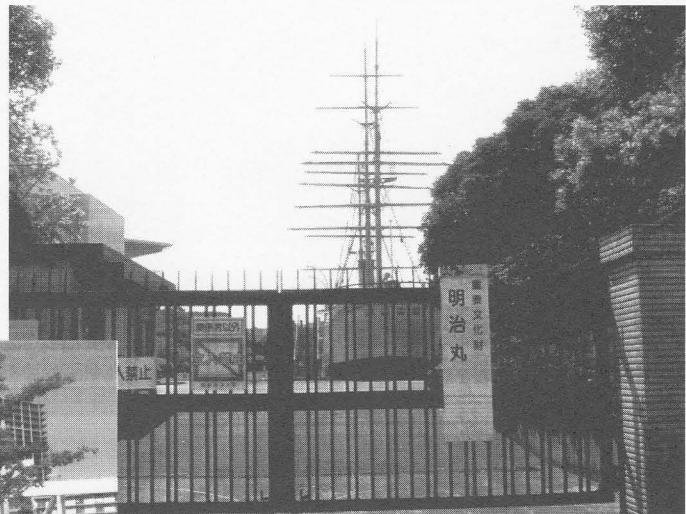
関口橋



「調練橋」を右に曲がります。小さなかわいい猫がいます。地震が来たら倒れそうな家もあります。少し行くと大きな通りに出ます。清澄通りです。左に曲がります。

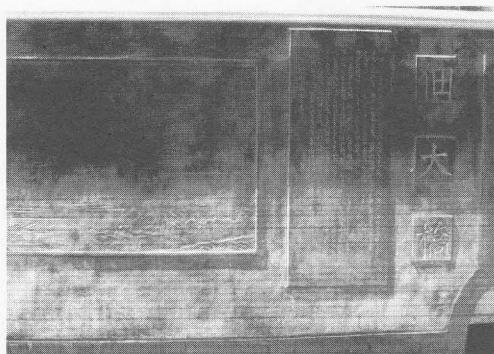
それでは、川崎を目指して出発します！とてもいい天気です。「巴橋」を渡り、「関口橋」を渡ります。

大きな橋の「相生橋」  
を渡ります。



少し行くと「明治丸」があります。東京海洋大学の中にあり、以前は練習船でした。国の重要文化財などつているよう

橋からの眺めはとてもいいです。橋を渡ったところでちょっと休憩です。コンビニでアイスを買って相生橋横の公園で休みます。とても景色がいいです。かつこいい船も通ります。少し休んでまた出発です。右に曲がって佃大通りに入ります。



このあたりは佃島といつて昔からの下町の様子が残っています。それから高層マンションなど新しい町の「リバーシティ21」もあります。赤い橋の「佃小橋」はとても絵になるところです。橋を渡って左に行きます。高層マンションが立ち並んでいるのがすごいです。次に佃大橋です。橋を上がる階段で一休みです。



聖路加タワーに入ります。外がとても暑いので、中は涼しいと思つたのですが、逆に中の方は暑いです。

長い橋を渡り左に曲がります。川沿いのきれいな道で、花がとてもきれいです。

隅田川に架かる橋で、とても眺めがいいです。聖路加タワーも大きくなっています。

中にあるコンビニでお茶を買い、ベンチで少し休みました。外に出て、あかつき公園に行きます。公園の中にはシーボルトの胸像があります。シーボルトは江戸蘭学発展のために貢献し、このあたりが江戸蘭学発祥の地でした。またシーボルトの娘いねが、築地に産院を開業したこともあり、ここにシーボルトの胸像が建てられました。公園では、初めて自転車に乗る女の子がいました。お父さんとお母さんが応援しています。それから公園には噴水があります。噴水は水の高さが高くなつたり低くなつたりします。小さな男の子が噴水の低い時に来て触つていたら、いきなり高くなつて服がぬれていきました。



少し行くと築地つきじ本願寺ほんがんじがあります。古代中インド様式を取り入れた建物のお寺です。中に入ると人がたくさんいます。外では記念写真を撮っている人がたくさんいました。

晴海通りと新大橋通りの交差点から、急に人が多くなってきます。こ

こには「中央卸売市場」があります。新鮮な魚や野菜、果物が取り引きされています。

そして通りに面して「築地場外市場」があります。食料品店など小さなお店がたくさんあります。

ものすごい人です。歩くのも、ちょっとずつです。ベビーカーの人は大変そうです。お店では、生きたカニなどがたくさん売っています。それからおもし屋さんには長い行列ができるいます。

通りの反対には、「国立がんセンター」があります。前に来たことがあります。



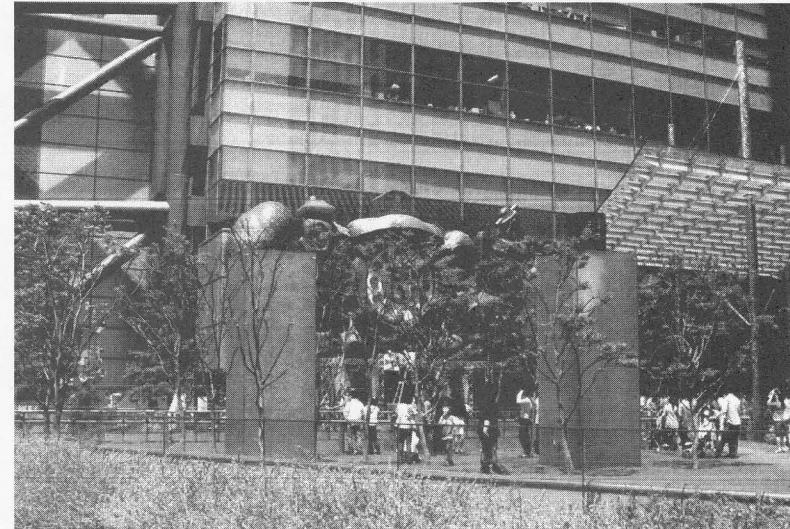
そしてなんとか人がたくさんのところを抜けました。市場には右の写真のような乗り物がたくさん走っています。中はあんまりきれいではないようです。

右に行き、少し行くと「浜離宮庭園」です。ここは江戸時代の大名庭園です。



した。  
お腹が空いてきたので、お昼にします。  
「ウェンディーズ」でチキンバーガーを食べました。しばらく休みました。

なんだか人がたくさんいます。新幹線の下を通りて行きます。「第一京浜」となります。ビルのところをずっと行きます。



少し行くとビルばかりになります。このあたりは「汐留」です。日本テレビなど、たくさんの高層ビルが立ち並んでいます。日テレの時計があります。



歩いていると、「川崎まで14キロ」の標識がありました。

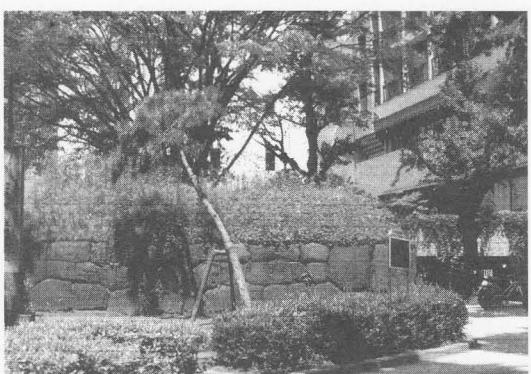
一二時、再びスタートです。まつすぐに進みます。真っ黒いホームレスが歩いていました。「金杉橋」を通ります。

日本ウェンディーズ 浜松町店		
東京都港区浜松町1-27-12 秀和浜松町交差点ビル		
(代)	0120-029-370	お食事バーガー!!
ウェンディーズは お肉 焼きたて 作りたて!!		
店NO.003057 レジNO.0003 2007年05月04日(金) 11時31分 1名		
E/1		
チキン	1	¥220
ピッグヘン	1	¥400
BMWバーガー	1	¥280
ザリーラバーガー	1	¥380
STMアイスティ	1	¥0
STMメロン	1	¥0
内税品計 (消費税等 [ 5.00% ])		¥1,280 ¥60
合計 お預り お釣り お客様No. 0394429		¥1,280 ¥2,080 ¥800

オオムラサキツジがきれいです。少し行くと「西郷・勝会見之地」の碑があります。一八六八年（慶応四年）三月一四日、江戸城総攻撃の直前に両者の談判が行われ、江戸城の無血開城が実現しました。



少し行くと大きなパシフィック東京のホテルがあり、品川駅に到着です。暑いです。  
駅前のウイングでトイレ休息。マックに入ろうとしたのですが、人がたくさんいて入れません。  
先に進むことにします。



少し行くと高輪大木戸跡です。ここは前に来たことがあります。伊能忠敬は測量をこれからスタートさせました。泉岳寺の近くを通って行きます。のどがかわいたので、コンビニで水を買い、近くの公園で飲みました。

公園からはJRの線路がよく



つづく

（いしや はるか・文教大学付属中学校三年）



## 2007年5月4日 私の旅（門前仲町～品川） —「富岡八幡宮から川崎まで歩く！」（その1）—

## 補訂・菅茶山から伊能忠敬に贈られた詩

第五四号に掲載された『神石高原町に設立された四基の伊能測量碑』を読まれた村山吉廣先生（早稲田大学名誉教授・漢文学者）により、記事中の「菅茶山



菅茶山肖像（菅茶山顕彰会）

### 伊能先生奉命測量諸道行次見問賦贈

（伊能先生、命を奉じて諸道を測量す。行次に問はる、賦して贈る）

酒肆藏名臥故邱 酒肆に名を藏して故邱に臥し

豈図幕檄命飛轍 あに図らんや幕檄の飛轍を命ぜんとは

璿璣坐括三千界 璇璣坐らにして括す三千界

分率行量六十州 分ち率いて行量る六十州

已識馬援能聚米 已に識る馬援能く米を聚るを

不從楊炯問浮舟 楊炯に従い浮舟を問わず

奚囊我亦收河岳 奚囊我も亦た河岳を収め

愧把生涯供漫遊 愧づ生涯を把りて漫遊に供せしを

### 【出典】『黄葉夕陽村舍詩』後編三一六

【注】行次||旅程、旅の途上 藏名→名をかくす  
酒店の主人として目立たずに励んでいた  
攷邱||故丘→郷里 璇璣||天文測量の器械  
坐下さいながらにして、その場で括くくる、調べる  
三千界||高く遠い所 分率||測量器械の名称  
行||歩きながら 馬援||後漢時代の將軍

楊炯||唐代の詩人 奚囊||詩囊 作った詩や句を  
入れておく手元の袋 河岳||山川、地理

（伊能先生は幕命を奉じて諸道を測量され、その旅の途中、私の宅を訪問してくださいました。そこで私は次の詩を賦して先生に贈りました。）  
（詩文）伊能先生は酒屋の暮らしに名を藏して故郷で過ごしていたが、幕府からいきなりお触れが出て測地の使者としてつかわされようとは、思いがけないことであった。璇璣を使って、いながらにして三千界をしらべつくし、分率を使いて道すがら六十州を測量した。後漢の馬援が天子の前で米を山盛りに集めて、この米の山を使って軍の進路を説明した故事があるが、先生は馬援に劣らず地理にくわしい。楊炯に従つて浮舟を問わず（この句、意味不詳）。詩句を入れる袋をいつも持ち歩いて全国いたるところで私（茶山）も詩を作つたが、ただ生涯漫然と旅を重ねただけで、先生のように立派な地図の仕事を樹立しなかつたことが恥かしい。

## 柏木家に残された忠敬資料

柏木 隆雄

「資料①」は、高橋作左衛門景保から、シーボルトの通詞、吉雄忠次郎宛の書状。

源氏物語は千年昔のロマン。諸々の記念行事が紅葉盛りの京都の街に一層の彩りを添えていた。その京都の旅から戻つて間もなくの十一月二十六日、私は二百年昔の伊能忠敬のロマンを追つて、佐倉の国立歴史民俗博物館を訪ねた。歴博（以下略称使用）に寄託してある柏木家に残された忠敬関連資料の閲覧を申し込んでいた。

歴博は、佐倉藩堀田侯の城址に建てられている。忠敬プロジェクトの司令塔だった堀田攝津守とも縁りの土地である。

閲覧の許可が下りてから、同行を希望していた片桐一男氏（青山学院大学名誉教授）のほかに、忠敬研究会の会員の方にも声をかけたが都合が得られずに、結局は二人だけの閲覧となつた。片桐先生は、長崎歴史物語に詳しく、出島貿易やカピタン等の著作も多く、出版されたばかりの『それでも江戸は鎖国だったか』が歴博内の書店に平積みされていた。当日、立合つてくださつた歴博の山本光正教授とは、法政大学大学院史学専攻での先輩、後輩の間柄であつたのも偶然の出会いだつた。

シーボルト研究関連の書物によると、筒井伊賀守江戸町奉行は、問題の伊能図ほかの回収が緊急の要務と考えて、自作の文案を示し、景保に書かせて、それを早飛脚で長崎に送つたとなつてゐる。

『シーボルトの日本史』布施昌一著

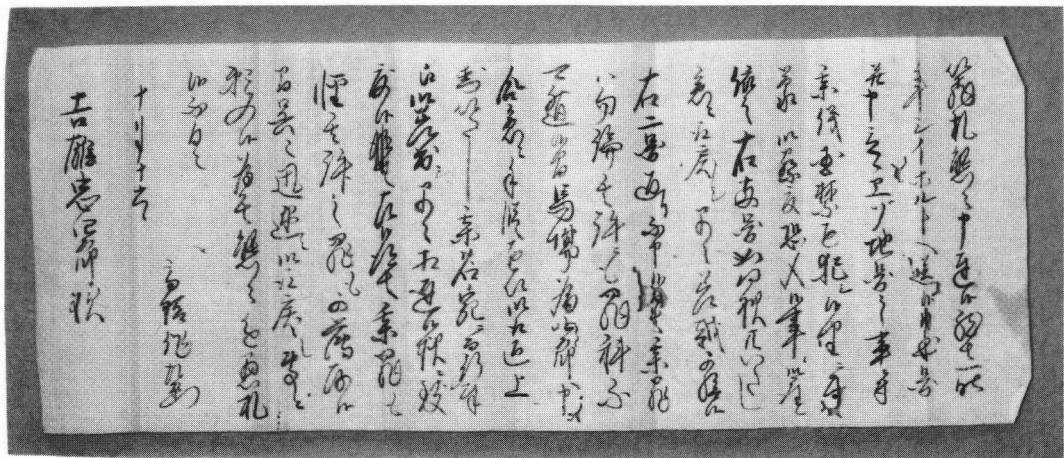
（木耳社）には、ほんとど同文の書状が掲載されていたので、その全文を記す。



歴博での資料閲覧 片桐一男 山本光正 柏木隆雄

資料①と見比べて

寄託資料は五十九点、その目録を本稿の末尾に掲載した。全ての資料が忠敬と何らかの関りがあると思われるが、私なりに興味深いものを選び、その紹介と、少々の説明を施した。と言っても私は学者でも研究者でもない。忠敬の身内の子孫の一人として感想を述べるだけ。ご容赦いただきたい。



資料① 高橋景保書簡（吉雄忠次郎宛）

異なる点は、日付がなく宛名人が、末永と吉雄の両通詞となつてゐるだけ。従つて資料①は、同文の何枚かの中の一枚か、または後日、それからの方文かも知れない。筆跡が景保のものか、景保から忠敬への書状で検討してみたが、私は判断できなかつた。

早飛脚を仕立てるほど急を要した割には、飛脚が江戸を発つたのが十一月二十五日、その六日後の十一月一日に長崎に到達、シーボルトに伝えたされたのは、それから数日後という悠長な日時の流れが氣にかかる。「資料②」この書付は、事件発覚により、景保以外にに詮議を受けた関係被疑者の、役職・氏名・仮処分を、当番目付の本目帶刀が記した報告書と思われる。

頭の部分が切れているが、記されている川口源次、岡田藤助、門谷清治郎、吉川克蔵、永井甚左衛門は、いずれも景保の配下にして伊能団にも係つた者共である。長崎屋源右衛門は、シーボルト江戸参府時に宿とした日本橋本石町の長崎屋の当主。

長い詮議の期間を経て、事件の被疑者に判決が下つたのは、文政十三年三月。この内容を報らせる封廻状が伊能家資料にも存在する。因みにその内容を抜下さいする。

資料①とほとんど同文の書状

『シーボルトの日本史』布施昌一著（木耳社）より

飛脚を以て懃々申述べ候。然者一昨年シーボルトへ送り候日本竝に蝦夷地の図の書付、御察度を蒙り恐入る事に御座候。之に依り右両図如何様にも致し、急々取戻し、早々御差越し給るべく候。右両図返り申さず候ては某は勿論其元にも罪過直ちに参るべく候。馬場為八郎申し含み、急に手段を以て取返し、上封致し、某名宛にて奉行所へ御差出し、早々相達し候様致し度候。左候得ば某罪も減すべく、其許の罪過も薄かるべしと存じ候間、吳々も迅速御取戻し専一頼み存じ候。其の為懃々愚札を進候。不具

末永甚左衛門様  
吉雄忠次郎様

高橋作左衛門



意味もある。

資料⑤は、港湾風景の拡大図であるが、海上に朱の直線が走っている。忠敬測量隊が書き加えたものかは判らないが、例えば、出島近くの大船渡の海岸から対岸の稻佐崎の船津までは「五丁五十間」と距離が記入されている。水深も大船渡側で「深さ四尋」、船津側で「深さ三尋」との書き込みがある。他の朱線にも同じく記入がある。

この絵図が、いつ重蔵から忠敬に移譲されたかは定かではない。重

蔵が長崎奉行付として赴任

したのは寛政七年（一七九

七）、江戸に帰着するまでの

長崎在任二年の間に、重蔵

はこの絵図を蒐集したので

ある。

忠敬の江戸日記で、重蔵

との出合いを調べてみる。

第七次測量が終わって江戸

帰着の日から、第八次測量

出立の日までの日記に、二

人の度々の往来が記されて

いる。第八次測量の日程の

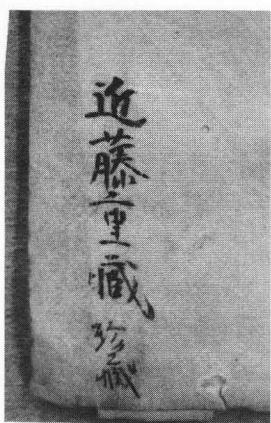
中には、長崎測量が含まれ

ているから、この時期に『

長崎之図』の授受があつた

のではなかろうか。

忠敬日記の文化十一年六月



資料④

資料③

### 三 先祖書

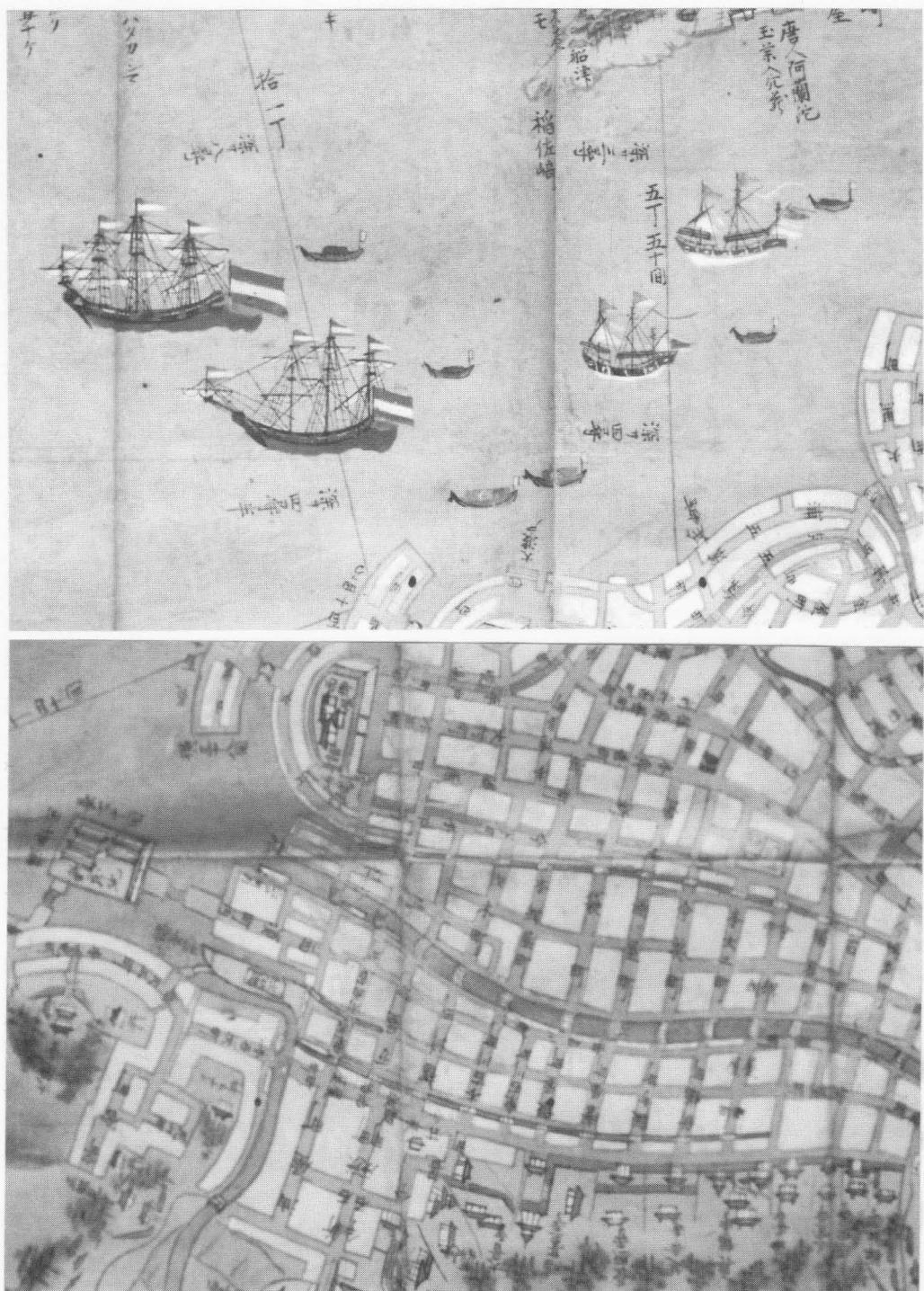
資料⑥は、伊能三郎衛門家と柏木家の先祖書である。

忠敬研究会による前回の調査（平成十四年十二月）で刮目の発見とされた重要資料である。伊能家中興の祖、伊能壱岐守の冒頭の記載から代々の戒名、没年月日の下段に所々説明が記されている。発心院無覚居士（七代目・三郎右衛門昌雄）には、「柏木久兵衛先祖、但し三男、椎木・新町に分地」の書き込みがあつた。これを受けて性寿院（初代柏木久兵衛）の欄には、「無覚（昌雄）三男久兵衛先祖、一代」と記入されている。

調査に立合つた佐久間達夫氏は、この記述を、伊能家『家牒』と照合するなど、丹念に分析した結果、昌雄の三男は、柏木乙右衛門幸七であると結論づけた。

昌雄死去の際には、伊能家から柏木久兵衛家に椎木の広大な土地が下賜されている。（伊能家『家牒』）代々の柏木久兵衛墓石の中で幸七の墓石の側面には「柏木氏・幸七」と改つた刻字がある。

十一日には、このような記述がある。「——近藤重蔵、御朱印帳九冊返す。」忠敬が重蔵に貸与していたものが戻ってきたのか、または重蔵から借受けたものを返したのか、解釈に迷うところであるが、私は借りたものを返したとみる。『長崎之図』を見て、御朱印帳の意味が解けた。重蔵は自分の蔵書類には「正齋藏」の朱印を押しているからだ。この時期、忠敬は第八次測量（二度目の九州）から帰着して間もない。数日前には、黒江町から亀島町に引越をしている。新しい御用書で、長崎を含む地図の作成に取りかかるので、参考となる『長崎之図』は、重蔵への返済物に含まれていなかつた。



初代柏木幸七、二代目の乙右衛門と弟の時右衛門、三代の音右衛門はある。寛政十二年閏四月の第一次測量出立の日、柏木幸七と伴の時右衛門は、嗣子、景敬と共に江戸千住まで見送りに出た（忠敬日記）幸七にとつては、孫に当る忠敬の二男・秀藏の旅立ちの晴れ姿も見たかったのである。

幸七の娘の妙諦が達の亡きあと、忠敬の繼室を勤めたのも、伊能家に於ては、自然の成行きだったと思われる。

【注】先祖書で昌雄が、三郎右衛門八代目となつてゐるが、七代目が正しいとされている。息子の景慶と弟の長由との間の、没年月日による違いである。

この項は、佐久間達夫氏の私家版『伊能三郎右衛門家の裏方として尽した柏木久兵衛』を参考にさせていただいた。なお拙著には、本誌三十三号に寄稿した『伊能忠敬と柏木家の人々』がある。

（次号につづく）

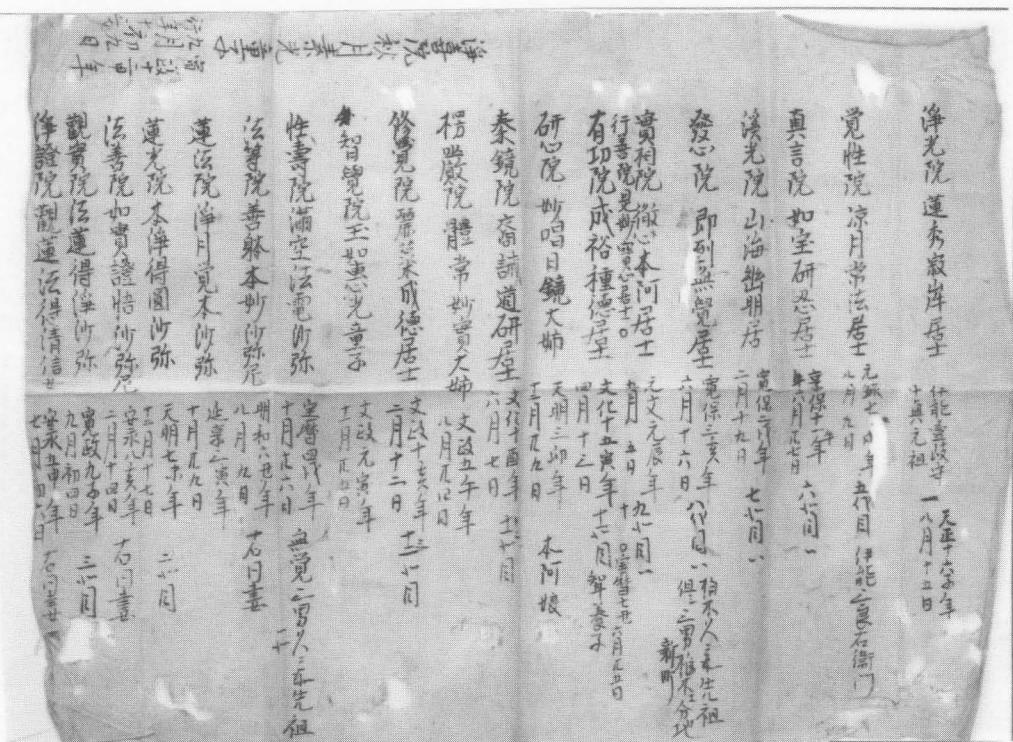
（かしわぎ たかお・税理士・作詞家）

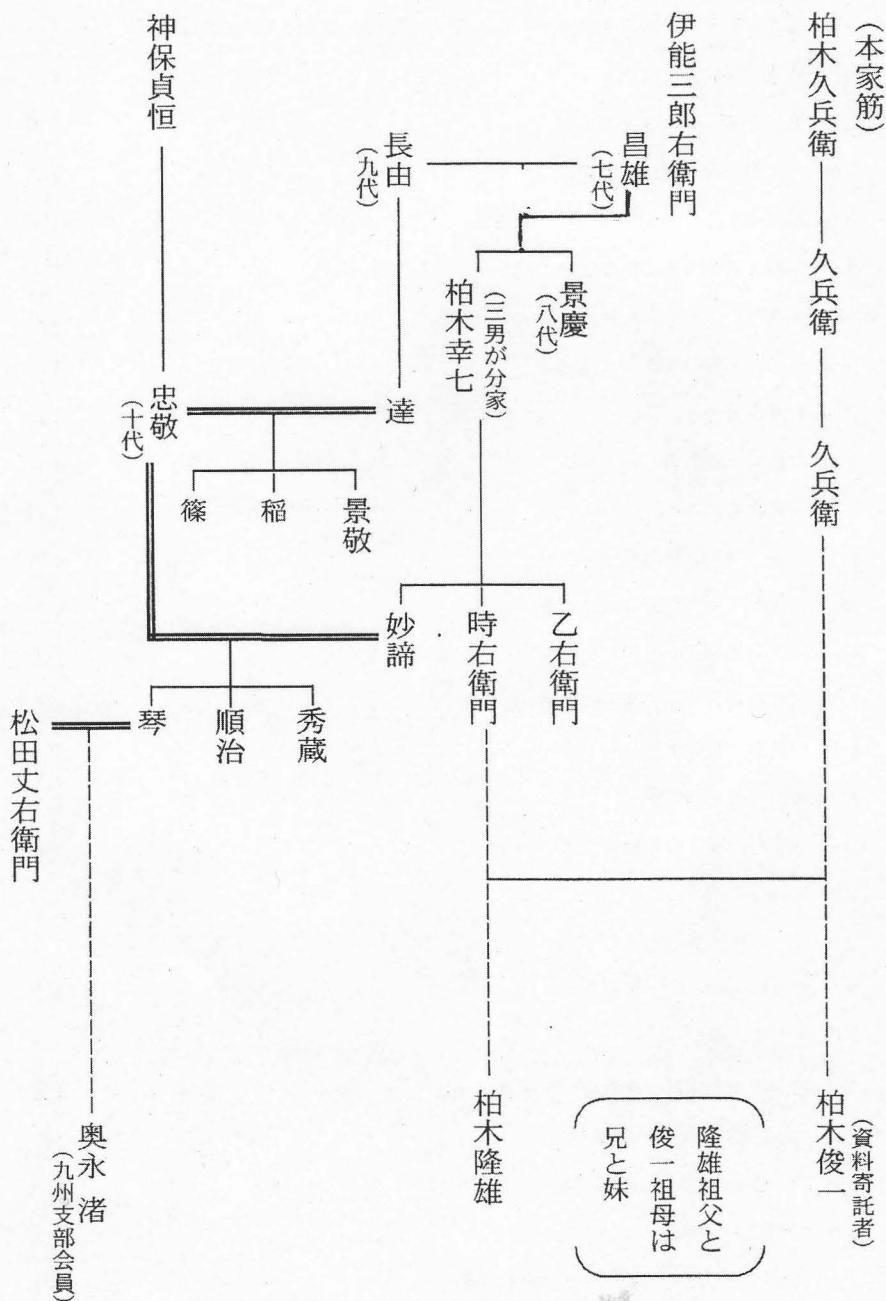
【資料】

歴博への寄託者 香取市佐原 柏木俊一  
写真撮影 成田市 佐藤勲

【次号予告】

- ・法隆寺の伽藍境内の図（手書き彩色）
- ・江戸御城周辺図（手書き彩色）
- ・大坂木版図・畿内絵図（彩色）
- ・地球一覧図（木版手彩色）





## 別紙1

## 〔寄託資料〕伊能忠敬関係資料のうち (T-12)

1-1 服部備後守様松前会所御通り 日記写・大橋御伝掛替出来形帳之写	1点
1-2 地球全図略説 (木版)	1点
1-3 天草備考 卷之壹 (写本)	1点
1-4 丹後国天橋山智恩寺記録	1点
1-5 和州式上郡長谷寺 境内并宝物書上	1点
1-6 龍田大明神本宮立物間数等之記	1点
1-7 美濃國一ノ宮南宮社堂御修復所等覧帳	1点
1-8 日向国宮崎郡 神武天皇	1点
1-9 心願書留	1点
1-10 由緒書 親類書	1点
1-11 (給金控)	1点
1-12 天保三辰年目録 (金銭出入覚)	1点
1-13 丹後国天橋山智恩寺仮名縁記	1点
1-14 北陸道大社正一位勲一等氣比太神宮御鎮座抜書	1点
1-15 (寺社行列・過去帳・諸書留)	1点
1-16 (諸国人口書上)	1点
1-17 大樹寺御由緒略記	1点
1-18 法隆寺仏閣雲仏宝物等目録	1点
1-19 墓碑建設願	1点
2-1 状 (三州高月院書上)	1点
2-2 状 (娘の件につき書状)	1点
2-3 状 (書状断簡)	1点
2-4 状 (伊能三郎家事後見につき一後欠一)	1点
2-5 (人馬使用許可カ一断簡一)	1点
2-6 状 (養子一件)	1点
2-7 (伊能忠敬心願一件)	1点
2-8 状 近江国犬上郡多賀大社并末社尊書	1点
2-9 状 (忠敬書状カ) 断簡	1点

別紙2

2-10 状 (伊能勘解由履歴書上断簡)	1点
2-11 状 (里程書上)	1点
2-12 状 (シーボルト事件につき)	1点
2-13 状 (先祖書)	1点
2-14 状 (小片) (里程書上)	1点
2-15 状 (シーボルト事件関係カ一前欠一)	1点
2-16 伊能忠敬略譜	1点
2-17 状 為取替申議定証文之事 (家督相続につき)	1点
2-18 状 (年号一覧)	1点
2-19 状 (断簡)	5点
3-1 近江国大絵図 全 単彩 (内題 近江国細見図)	1点
3-2 改正 和泉国大絵図	1点
3-3 大和国大絵図 全 単彩 (内題 大和国細見図)	1点
3-4 増補改正 河内国細見図全 (内題 河内国細見図)	1点
3-5 山城州大絵図 全	1点
3-6 地球一覧図 全 (木版手彩色)	1点
3-7 但馬国大絵図 (内題ナシ)	1点
3-8 (大坂図木版両面刷彩色)	1点
3-9 金沢八景之図	1点
3-10 (佐原地割図)	1点
3-11 (江戸図 手書彩色)	1点
3-12 (譜州小豆嶋之図) 手書彩色	1点
3-13 大和国法隆寺伽藍寺院境内之図 手書彩色	1点
3-14 長崎之図 (彩色)	1点
3-15 (絵図断片)	2点
3-16 (木版画断片)	一括

計54件59点

# 全国の居城陣屋の所在地と領主名記述

伊能忠敬測量の能率と安全対策か？

佐久間達夫

伊能忠敬は、日本全国の海岸線と主な街道を測量した際、測量の様子を測量先で書き留めた日記と、これを後で書き直した日記とに残している。前者を「忠敬先生日記」とい、五十一冊あり、後者を「測量日記」といって二十八冊ある。日記の表題は、昭和二十六年に表紙を修理したときにつけた名称である。

二つの日記の記述内容を比較すると、「忠敬先生日記」の方では、第一次測量から第四次測量までは、測量が幕府の支援事業であったので、忠敬が測量時に通過した村々から提出された資料を基にして、村名、村高、支配、家数、人数などをかなり克明に記述している。

第五次測量からは、測量が幕府御用の事業となつたので、諸藩に村の様子を記した「書上」の提出を義務づけたので、それらの内容は「日記」には記さずに、別帳にまとめたようである。

次に示す「国々居城陣屋附」がその記録と推察される。この記録は、国的重要文化財に指定されて、香取市佐原の伊能忠敬記念館に所蔵されている。

○ 国々居城陣屋附一覧

「国々居城陣屋附」の記述内容を見ると、日本全国六十八か国の居城、陣屋、番所、関所などの所在地と領主名が詳細に記されている。

これは忠敬が、測量が安全に、しかも能率的に行われるよう記述したものであろう。筆者は記録を繙いたとき、「よくもここまで記述したものだな」と、驚嘆してしまった。巷間では、伊能忠敬は、測量を隠れ蓑にして、幕府の命令で諸藩の情報収集を行つていたのではないか、と言つてはいる研究者もいる。

## 資料一 『国々居城陣屋附』

伊能忠敬記念館所蔵

● 阿波国

・居城

名東郡 徳嶋

・陣屋

海部郡 鞆浦山下

同郡 日和佐浦奥河内

三好郡 池田村峯安

板野郡 岡崎村吹上

同郡 北泊浦牛浦

・番所

川口番所 二十ヶ所

口留番所 九ヶ所

遠見番所 八ヶ所

見張番所 十七ヶ所

船改番所 一ヶ所

右同人

右同人

右同人

松平阿波守

右同人

右同人



● 淡路国（現兵庫県）

・居城

津名郡 洲本

・陣屋

津名郡 由良浦神宮寺谷

同郡 岩屋浦窪中

同郡 江井浦配

同郡 福良浦坂

・番所

川番所

・番所

見張番所

四ヶ所  
十五ヶ所

松平阿波守  
右同人

（以下国名のみ記す）

国名

山城 大和

河内

和泉

攝津

伊賀

伊勢

志摩

尾張

上総

安房

相模

武藏

安房

下野

下野

若狭

但馬

因幡

備前

備中

備後

・

三河 駿河

遠江

甲斐

伊豆

相模

武藏

安房

上総

相模

武藏

安房

下野

下野

若狭

但馬

因幡

備前

備中

備後

・

下総 常陸

近江

美濃

飛騨

信濃

上野

下野

下野

若狭

上総

相模

武藏

安房

下野

若狭

但馬

因幡

備前

備中

備後

・

越前 加賀

越後 佐渡

丹波

丹後

但馬

因幡

備前

備中

備後

肥前

肥後

肥後

肥前

肥後

肥前

肥後

肥後

肥後

・

伯耆 出雲

石見

隱岐

播磨

美作

備前

備中

備後

肥前

肥後

肥後

肥後

肥後

肥後

肥後

肥後

肥後

肥後

・

安芸 周防

長門

紀伊

筑前

筑後

豊前

豊後

肥前

肥後

・

日向 大隅

薩摩

壹岐

対馬

陸奥

出羽

対馬

陸奥

出羽

・

※ 注釈

・ 陸奥は、明治元年に磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥に五分割され、

出羽は、羽前、羽後に分ける。

・ 能登国は不記述。

○ 領主よりの贈り物

伊能測量隊には、全国測量時、測量先の領主から贈り物があった。

初期の段階では品物を受領していたが、回数が多くなるにつれて品物を持参して測量業務を行うことは困難であったので、品物をお金に換金して貰つた。

全国的にみると、四国と九州の諸侯からの贈り物が多かつた。次に四国での贈り物について記してみよう。

資料二 領主よりの贈り物  
伊能忠敬測量日記 佐久間達夫校訂より作成

・文化五年三月七日 淡路国洲本にて松平阿波守より贈之。

・ 織錦飴 一箱、五色素麺 一箱、寒製飴 一桶。

・ 同年三月二十二日 徳島城下にて松平阿波守より贈之。

・ 伊能勘解由 雁皮紙 千枚、鰯節 一箱。

・ 内弟子・侍の四人 鼻紙 壱ヶ宛。

・ 僕三人 刻煙草 一包宛。

・ 同年五月六日 土佐国高知城下にて松平土佐守より贈之。

・ 伊能勘解由 土佐鰯節 百本、小杉原 三十帖。

・ 下役（坂部貞兵衛、芝山伝左衛門、下河辺政五郎、青木勝次郎）

・ 土佐鰯節八十本宛、小杉原 二十帖宛。

・ 内弟子（伊能秀蔵、久保木佐右衛門、植田文助）

・ 侍・棹取の三人 金百疋宛。

・ 伊能の草履取（藤吉） 銀式両。



- 下役四人 晒布 二反宛。 小杉紙 五束宛。  
※ 付添村役人へ内談し、売り払う（合計金拾弐両）。
- 下役の僕四人 同年八月二十一日伊予国今治城下にて松平壱岐守より贈之。
- 伊能勘解由 晒木綿 五反。  
伊能秀藏 晒木綿 三反。
- 久保木佐右衛門、植田文助 晒木綿 二反宛。
- 庄作、佐助、善八 晒木綿 三束宛。
- 藤吉 刻煙草 三斤。
- 下役四人 晒木綿 三反宛。  
下役の僕四人 煙草 三斤宛。  
※ 贈り物を売り払う。
- 同年八月二十六日伊予国今在家村にて一柳因幡守より贈之。
- 伊能勘解由 羽綿 三把。  
下役四人 羽綿 二把宛。
- 伊能秀藏 羽綿 二把。  
佐右衛門、文助、庄作 羽綿 一把宛。
- 佐助、善八 中折紙 三束宛。  
藤吉 羽綿 二把。
- 藤吉、文吉、兵助、文藏、惣助 羽綿 二把宛。  
※ 贈り物を売り払う。
- 同年八月二十七日伊予国西条城下にて松平左京太夫より贈之。
- 伊能勘解由 晒布 二疋。  
伊能秀藏 晒布 一疋。  
佐右衛門、文助 奉書紙 一束宛。  
佐助、庄作、善八 杉原紙 二束宛。  
藤吉 半紙 二束。
- 下役四人 奉書紙 二束宛。  
下役の僕四人 半紙 二束宛。  
※ 贈り物を売り払う。
- 同年九月六日伊予国三嶋村にて松平壱岐守より贈之。
- 伊能勘解由 晒木綿 三反。  
伊能秀藏 晒木綿 一反宛。
- 佐右衛門、文助 延紙 三束宛。  
庄作、佐助、善八 刻煙草 二斤。
- 藤吉 晒木綿 二反宛。  
下役四人 刻煙草 二斤宛。  
※ 贈り物を売り払う。
- 同年九月九日讃岐国丸亀城下にて京極能登守より贈之。
- 伊能勘解由 晒木綿 七反。  
伊能秀藏 晒木綿 四反。  
佐右衛門、文助 晒木綿 三反宛。  
庄作、佐助、善八 晒木綿 二反宛。  
藤吉 鼻紙 三束。  
下役四人 晒木綿 五反宛。  
※ 贈り物を売り払う。
- 同年九月十八日讃岐国高松城下にて松平讃岐守より贈之。
- 伊能勘解由 晒木綿 五反。  
秀藏、文助、佐右衛門、庄作 鼻紙 十五束宛。  
佐助、善八 鼻紙 五束。  
藤吉 鼻紙 五束。

- ・ 下役四人 晒木綿 三反宛。
- ・ 下役四人の僕 鼻紙 刻煙草 五斤宛。
- ※ 贈り物を売り払う。
- ・ 同年十月二日 讃岐国多度津にて京極壹岐守より贈之。
- ・ 伊能勘解由 編縮緬 二反。
- ・ 伊能秀藏 小菊 二十束（秀藏へ御贈物、下役衆同）
- 様故、付添政所瀬平をもつて、減少を申遣す）
- ・ 佐右衛門、文助 小菊 十束宛。
- ・ 庄作、佐助、善八 小菊 七束宛。
- ・ 藤吉 小菊 五束。
- ・ 下役四人の僕 小菊 二十束宛。
- ・ 下役四人の僕 小菊 五束宛。
- ※ 贈り物を売り払う。
- ・ 同年十月七日 讃岐国高松城下にて松平讃岐守より贈之。
- ・ 伊能勘解由 鮆子 一籠。
- ・ 伊能秀藏 杉原 一束五帖。
- ・ 佐右衛門、文助 杉原 一束宛。
- ・ 庄作、佐助、善八 刻煙草 一包宛。
- ・ 藤吉 刻煙草 一包。
- ・ 下役四人 杉原 二束宛。
- ・ 下役四人の僕 刻煙草 一包宛。
- ・ 伊能勘解由 純糸（せんうんじ） 小麦粉をこねて細く切ったうどん。
- ・ 同年十一月十七日 淡路国岩屋浦にて松平阿波守より贈之。
- ・ 伊能勘解由 琥珀丹後袴地 一下。
- ・ 伊能秀藏、佐右衛門、文助、庄作 足袋七疋宛。
- ・ 佐助、善八、藤吉 刻煙草 五斤宛。
- ・ 下役四人 京奥縞 一反宛。

資料三 第六次四国・大和路測量日記

佐久間 達夫校訂より。

文化五年五月六日付。

朝晴天。江戸暦局へ当所幸便に書状一封頬む。当国主（松平土佐守）より我等（忠敬）へ土佐鰹節百、小杉原三十帖、下役四人（坂部貞兵衛、柴山伝左衛門、下河辺政五郎、青木勝次郎）へ土佐鰹節八十宛、小杉原二十帖宛、内弟子三人へ土佐鰹節五十宛、棹取三人へ金百疋宛、草履取藤吉へ銀弐両、下役中四人草履取も同断銀弐両宛御贈惠。御使町奉行下役楠目虎之丞、麻上下にて来る。（以下略）

注釈

- 絹餚飪（せんうんじ） 小麦粉をこねて細く切ったうどん。
- 五色素麵（ごしきそうめん） 青、黄、赤、白、黒の五色に染め分けた
- 晒布（さらしぬの） 漂白した麻布、綿布。
- 綾織の布。
- 縞縮緬（しまちりめん） お召縮緬。
- 琥珀丹後袴地（こはくたんごはかまじ） 今のが京都北部で産出した織物
- 京奥縞（きょうおくじま） サントメ（インド東岸にある地名）縞の一種。紺と黄色みを帶びた茶色との縞縞。
- 中折紙（なかおりがみ） 半紙などの真ん中を二つに折つて懷中に入れていた。

奉書紙（ほうしょがみ） 上等のコウゾの皮を選んで原料とし、白米の

粉末を加えてすいた最上等の日本紙。

小菊（こぎく）

下等の和紙、鼻紙などに使う。

延紙（のべがみ） 小型の杉原紙、鼻紙などに使う。

雁皮紙（がんびし） 西日本に多い沈丁花の落葉灌木、雁皮の樹皮を原

料とした和紙。「斐紙」ともいう。

小杉原（こすぎわら） 播磨国杉原谷で初めて産出した紙で、コウゾ

小杉紙（こすぎし） を原料とし、米粉を混ぜてすいた紙。鼻紙な

どに用いる。

### ○ 四国靈場八十八か所の札所に宿泊

測量先の宿泊所は、主に庄屋や寺院であった。伊能測量隊は、四国測量時、沿海・街道から数多くの神社・寺院の門前までの仕越測量をしたり、寺社に立ち寄つて建築物や宝物の見学をしている。四国では、次の「四国靈場八十八か所」に立ち寄つたり、宿泊している。

#### 資料四 伊能測量隊が宿泊した寺院

・文化五年四月二十三日

本陣 四国二五番札所 宝珠山津照寺 現室戸市

・文化五年六月二日

本陣 四国三八番札所 蹤跎山金剛福寺 現土佐清水市

本陣 嘉宝坊 脇本陣 隆藏坊

・文化五年四月二十三日

四国二四番札所 室戸山最御崎寺

現室戸市

・二月二十四日

朝より晴天、朝濛氣あり。五ツ後より出立。南八丁堀伊達若狭守

此日も余寒。

測量御用に付、御領分廻浦仕候節、御国産の品々銘々へ被下、難有仕合奉存候。右御礼參上仕候。伊能勘解由。夫より高橋御役所へ立寄る。此日高橋氏安産あり。八ツ半後に帰宿。

#### 資料五 諸藩の江戸屋敷への挨拶

「忠敬先生日記 二四」

伊能忠敬記念館所蔵

・文化六年二月二十二日

朝晴曇。桑原へ行く。夫より堀田撰津守殿山田綱治郎へ、中国三分図持參。夫より松平土佐守殿、松平阿波守殿、雉子橋通小川町松平壱岐守殿、牛込御門内松平讚岐守殿、下谷御徒町加藤遠江守殿、浅草タンボ加藤出雲守殿へ国々廻浦の節御贈物の礼に罷越す。

#### □ 手札

測量御用に付、御領分廻浦仕候節、御国産の品々銘々へ被下、難

有仕合奉存候。右御礼參上仕候。伊能勘解由。

夫より高橋御役所へ立寄る。此日高橋氏安産あり。八ツ半後に帰宿。

最御崎寺の大師堂まで仕越測量する。

・文化五年四月二十四日

四国二六番札所 竜頭山金剛頂寺 現室戸市

寺続きの山へ登りて山々を測る。濛氣多くして遠山遠島不見。

・文化五年五月一日

四国三一一番札所 五台山竹林寺 現高知市

風景よし。

・文化五年十月二六日

四国八六番札所 普陀洛山志度寺 現さぬき市

古筆画を一覧す。

殿へ、国産贈物の礼に越す。渋川主水へ立寄る。主水殿と善助に対面。夫より愛宕下一柳因幡守殿、同松平立丸殿、虎御門外京極能登守殿、芝切通しより赤羽根小沢権右衛門へ立寄る。夫より麻布六本木京極壹岐守、麻布龍土伊達遠江守殿、青山百人町松平左京太夫、国々廻浦の節国産贈物の礼に罷越し、七ツ後に帰宿。

「国々居城陣屋附」の文書から、標本として四国部分を抽出した。

四国の居城は、徳島・丸亀・高松・宇和島・大洲・松山・今治・西条・高知・洲本にあり、松平阿波守、京極能登守、松平讃岐守、京極壹岐守、伊達遠江守、加藤遠江守、松平立丸、松平壹岐守、加藤出雲守、松平左京太夫、一柳因幡守、伊達若狭守、松平土佐守が藩主であった。

これらの藩主は、使者をたて、測量隊の宿泊所に贈り物として、国産品や日用品などを届けた（資料一・二参照）。特に伊達遠江守は四回、松平阿波守は三回、松平讃岐守と松平壹岐守は二回贈り物を差し出している。

それに対して伊能忠敬は、測量が終わり江戸へ帰着後、測量御用の際に贈り物を頂いた諸藩の江戸屋敷に出向き、贈り物の礼をしている。

番所も、川口、口留、遠見、見張、船改、浦、船着、山口、浜、境目、内、川と、各藩によつて名称が異なつてゐるものもあるが、藩の重要な場所にそれぞれ置かれていた。

伊能忠敬は、全国測量によつて、膨大な地域の情報を収集することができ、それをもとにして、「大和国寺社靈宝録」や「国々居城陣屋附」などという記録を残した。

これらの記録が、伊能測量隊にとつて、測量作業を円滑に進めるた

めのものであつたのか、また、測量という大義名分のもとに藩内の情報収集も兼ねていたのか。現在、研究者によつて意見が分かれている。私は、前者であると思う。なぜなら佐原の伊能忠敬記念館で所蔵している前記史料が、幕府提出の原本の控えであつたならば、原本提出後、控えは焼却して残しておかないのであろう。

（さくま たつお・伊能忠敬研究家）



横芝光町 栗山川 2008.4 江口俊子氏画



○講演一「伊能家と『縁があります』」 講師・伊能 陽子さん

### 一、ご縁があります

お配りした小冊子（※文末参照）は、洋の小学校の同級生で現在富士宮市にある大きなりハビリ病院の院長をなさっている高橋伸忠さんと私が、その病院が年一度開催する講演会で対談した時の内容をまとめたものです。たくさん送つていただいたので、今日はこれに沿つてお話をすすめたいと思います。

私は伊能家にお嫁に来て、たまたま忠敬先生と『縁』ができました。

夫は次男なので関係ないと思っていたのですが、武藏大学で化学の教授をしていた伊能家七代目である兄・敬が亡くなり、現在のようになるとになりましたが、とても運命的なものを感じます。兄・敬が亡くなりましたのが平成七年四月七日でしたが、その前日の四月六日に渡辺さんの記事が新聞に出ました。近所に住む元国土地理院長の金窪さんにお様を通じて渡辺さんはどんなんですかと伺つたら、「面白いおじさんだよ」ということでした。それを兄に言おうと思つたら死去してしまつて。。。その後渡辺さんに私が電話して、それからいろいろのことが始まりました。ペイレさんの地図を日本に持つてきて佐原でフランス中図里帰り展、そして研究会の発足となり、現在に至りました。たつた一本の電話で人生が変わつてしまつたと感じています。

### 二、伊能家の女性たち

兄・敬が『千葉県の歴史』に寄せた「伊能家の女性たち」で書き

ましたように、忠敬の遺品は祖母の代までは家の財産として大事に守つてきました。祖母の「こう」は忠敬から五代目にあたり、長女で家つき娘、八十八歳で

亡くなるまで佐原のあの家で暮らしていました。義母の多嘉は鹿児島の伊地知家の出で曾祖父は島津藩史『旧記雑録』を作つた人。父は海軍中将だった伊地知季珍で、榎本武揚の妻・たづの妹が父の二度目の妻という縁戚関係があります。榎本武揚は忠敬の内弟子・箱田良助は忠敬の次男ですから、以前私たちが鹿児島を訪れた際、しみじみとご縁のつながりを感じました。多嘉は多くの方に研究してもらおうと史料を佐原市に寄付しました。名義は義父でしたが、実際は義母の考えで行つたことです。祖母・こうも筆まめ、物持ちがよく、好奇心が強い。これは伊能家の伝統でしょうか。家に古文書の反古がたくさん残りましたので、安藤由紀子さんの協力を得て整理をしました。二人で『景利日記』の中に記載されている「地震」について探したことがありました。景利さんという方は記録魔で、実に様々なことを記録したり、石や木の実を集め保存したりしておりました。おそらく旅僧や旅周りの人々の話を聞いて書いたのだと思われますが、この日記を読むと、赤穂浪士事件が三日後には佐原に伝わつていた、などということもわかりります。

芳名録が残つていて、会報で紹介しておりますように、大勢の方々が佐原の旧家や忠敬さんの遺品を見に来られました。祖母はその方たちに遺品の説明をしておりました。今で言う学芸員の仕事をやつていたわけですが、義姉の話では大変な名調子だったそうです。遺品の寄贈は昭和三四年で、昭和三六年四月に記念館がオープンしました。私はまだ結婚前でしたが、お蔵に入つて義母の言う通りに片付け

をしました。長持を見て、すぐ大奥を連想しましたね。洋は子供のころ悪さをして閉じ込められたので、お蔵には入りたくないと言つていました。

義母・多喜はものすごく勉強して、努力して伊能家の人間になつた人です。亡くなる直前まで「時間がない、時間がない」と言つておりました。そして「孫たちへ」という手書きのコピーを残しました。それによると、伊能家の祖先は大和の国から千葉へやつてきましたが、もとは藤原氏でその前は白蛇だったということです。孫たちはしつかり読んでくれないので私の代で終わりかもしれないと思つています。

この冊子にも書いてありますように、伊能家では代々、先祖の遺品を保存したり整理したり管理したりする仕事は女性の仕事とされておりまして、祖母から義母へ、そして私が受け継いできたわけです。結構大変なこともありますて、どうしてこんなことを引き受けたのかしらと思うこともあります。「伊能家は女性でもつていて」と書かれた義兄・敬の文を読んで勘違いしたのがちょっととまづかつたかもしれませんね。でも節目、節目で不思議と縁があるので、これは運命かなと思つております。

### 三、伊能七家

伊能家に嫁いできて、墓参りなど先祖からの習慣として行われている行事に連なつておりますと、伊能家の一族のつながりを感じます。

伊能家には七つの系統がありまして、「伊能七家」と呼んでいます。

佐藤雅美という方が書いた『お白洲無情』という小説があります。主人公は大原幽学という、やはり千葉の香取のあたりで農政改革をした人なのですが、この中に「伊能茂左衛門」が出てきます。茂左衛門（節軒）は伊能七家の一つである茂左衛門家の中興の祖と言われる人

です。茂左衛門家は戦国期の初代が隠居して立てた家で、国学者・楫取魚彦を出した家であります。節軒という方は長生きで、一族を取り仕切つて七家の合議制で助け合いをしたり、資金をプールしておくなどのシステムを作つたりしました。茂左衛門家の資料は佐倉の国立歴史民俗博物館へ寄託され、佐倉のほうで収蔵されています。

三郎右衛門家はご存じのように忠敬先生が婿養子に入った家です。忠敬の三郎右衛門家での呼び名は「源六さん」です。忠敬さんの三代前には先ほどもお話しました『景利日記』を書いた記録魔の伊能景利という人がいました。忠敬先生はこの方に大変影響をうけ、記録することの大切さを学んだといわれております。

また昌雄という人がおりまして、この方は隠居後、江戸・深川に住んでいて笛の名手だったそうです。

七左衛門家は佐原の横河岸に本家があり、祖母・こうの夫の実家です。洋は祖父の家・七左衛門家門家を継がされました。ですから洋は正式には七左衛門です。二・三代前のことですが、この家から宮内家に嫁入りした方



がおります。（今日ご出席の宮内さんの家です。）

権之丞家は佐原の横宿にあり、書道家の伊能静光さんも会員でした。権之丞家の墓石を見ますと、水戸家の側室の流れが伊能家に嫁に來たことがわかります。

平右衛門家は佐原・諏訪神社の宮司の家です。

大作家は八日市場の七郎右衛門豊秋の家で、佐原の伊能記念館の館長・伊能楯雄さんはこの家の方です。

彦作家は、茂左衛門から分かれた家。以上が伊能七家です。

会員のなかにも、もと伊能さんがいらっしゃって、ご夫婦で会員になられている藤田さんは、奥様がもと伊能姓でいらっしゃいます。小池美幸さんも元の姓が伊能さんですが、佐久間先生が調査なさつた結果、ご先祖が伊能四郎右衛門さんだということが判明しました。

昨今、「伊能」姓というだけで忠敬さんとはまつたく縁戚関係がないのにもかかわらず忠敬の子孫と名乗つてゐる方がいらして、対応に困る場合があります。なかにはご自分で信じ込んでしまつてゐるのか、事実無根の縁戚関係を宣伝する方もおられて、あからさまに否定するわけにもいかず、何となくうやむやにして済ますこともあります。

また、一方では神保さん（忠敬の父・神保貞恒の実家）、窪谷さん、海保さんのように、二〇〇年前の縁がずっと続いているというお付き合いもございます。中でも会員の藤岡さんは二代にわたつて三郎衛門家と結ばれていて、深い縁があります。

#### 四、伊能忠敬の墓所

忠敬さんのお墓はご存じのよう三か所あります、浅草の源空寺、佐原の觀福寺、多古の平山家墓地です。源空寺は淨土宗ですが、高橋至時先生の側に葬つてほしいという忠敬の願いを受け入れて、ここに

お墓があります。佐原の觀福寺は真言宗で伊能家代々の墓所ですが、ここにあるお墓には髪と爪が收められています。山武郡多古町の平山家墓地にも忠敬さんのお墓がありますが、これは形式だけのお墓です。忠敬さんが伊能家に入るときにつたん平山家の養子になつて婿入りしたということと、妻・ミチの母・タミが平山家の出でミチ自身もある期間、平山家で育つたという縁故があるため、建てられたお墓です。

なお、平山家は日蓮宗ですが、タミをはじめ伊能家の女性は熱心な日蓮宗の信者が多く、絶対に改宗しなかつたといわれております。

また、佐原の淨国寺は日蓮宗の寺ですが、ここにも伊能家のお墓があります。七左衛門家の墓が一四もありましたが、二〇〇年以上も前のもので表面がすっかり摩耗してしまつていて読めないし、もう古くて墓石が傾いていましたので、整理しました。三郎右衛門家の方はそのままゝ義姉が供養しております。觀福寺の七左衛門家の墓は修復いたしました。古い墓を子供たちに残すわけにはいきません。

七左衛門家に残されたのは墓と稻荷だけです。墓については今申し上げました通りですが、稻荷の方は佐原の「宝寿司」の脇にあります。機会がありましたらどうぞ訪ねてみてください。

（了）

※小冊子『人生の挫折の受けとめ方とその乗り越え方：伊能忠敬翁の足跡をたどつて』【対談】伊能陽子・富士リハビリ病院

長 高橋伸忠（平成一八年六月開催・同病院「心の健康講座」として開催された講演会の記録） 財団法人・富士心身リハビリテーション研究所「所報」No.23・2008.6 別冊

伊能忠敬研究会例会

2008. 11. 9

伊能陽子

☆ご縁があります

チュウケイ先生との出会い  
古文書、裏打ち、安藤さん  
七代目敬没（1195）渡辺さんの記事を見つける  
ペイレさんの地図展  
研究会発足

☆伊能家の女性たち

四人の妻 みち 妙諦 信 栄  
娘（いねー妙薰）嫁（りて）  
五代目 孝（こう）  
六代目嫁 多嘉

☆伊能七家

三郎右衛門（本宿）六代目景利 七代目昌雄 十代目忠敬  
七左衛門（横河岸）  
茂左衛門（新宿） 楠取魚彦 節軒…小説「お白洲無情」佐藤雅美著  
権之丞（横宿）  
平右衛門（諏訪神社）  
大作 七郎右衛門豊秋（八日市場）  
彦作

☆伊能忠敬の墓所

浅草 源空寺  
佐原 観福寺  
多古 平山家墓地



## 伊能塾

### 第二回例会（十一月九日実施）再録

○講演二「私の伊能図発見史」PARTI 講師・渡辺一郎さん

#### 一、伊能図訪ね歩き

私が伊能図を訪ね始めたのは約三〇年前のNTT時代に、郵政省から委託された郵便局オンライン・ネットワーク構築の責任者として仕事をしていた時でした。二〇〇年前に全国を歩いて測った伊能忠敬を思い出し、本物の伊能図を見て感動しました。残っている伊能図を全部見てやろう。それから伊能図行脚が始まりました。順を追つて訪ね歩いた地図を説明します。

①国立国会図書館地図室、古典籍室 最初にここに行きました。「沿海地図小図副本」を見てすごいなと思いましたね。正確さと彩色に。これが二本の脚だけで出来たのかと。その時に相手してくれたのが鈴木純子さんで、当時三〇代後半でしたね。機縁です。古典籍室には、シーボルトから取り戻したといわれる「カナ書き特別小図」三枚組が収蔵されており、実見しました。このほかに堀田家旧蔵の四国の小図副本があります。

国会図書館訪問のあと、伊能図の所在と現況について文献調査し、現存する伊能図訪問を始めました。主なものを見た順に掲げます。

- ②日本学士院図書室 文政四年中図模写本八枚 東大の副本を謄写。
- ③東京国立博物館 豊橋藩主大河内松平家旧蔵の中図八枚。
- ④早稲田大学特別資料室 享和二年中図二枚 繋ぐと疊六疊分。
- ⑤静嘉堂文庫 カナ書き特別小図控 大槻如電旧蔵。
- ⑥成田山仏教図書館 文政四年中図写本 八枚 美麗 伝来不明。

⑦英國 グリニッヂ国立海事博物館 文久年間に英艦アクトエオン号が日本沿岸測量をおこなった際に、与えた小図三枚組。

○伊能図さがしの原点 国会図書館の「伊能日本実測小図」（堀田図）は、日本東半部沿海地図の副本で「堀田文庫」旧蔵。伊能測量の「担当閣僚」であつた若年寄・堀田正敦へ謹呈されたものです。陸軍文庫の蔵書印があり、戦後、陸軍の資料が焼かれたときにもらつてきたそうです。私が見たときは、正式に登録されていませんでした。だから目録にもない、という状態でした。鈴木さんに断られたら、見る機会はなかつたでしょう。

地図は大きくて撮影不可能なので、今でも写真はない（どこにも載つていらない）でしょう、つまり正式撮影の場には出てこない本物の図なのです。素性のよい図にバツタリ出会つたのは幸運でした。

エベール氏（米国議会図書館 地理・地図部長）来日時に見せようと思い出して貰つたら、かなり痛んでいてイメージが違いました。退色したのですね。まあ三〇年経つたから仕方がないと思いますが。

○伊能図のさがし方 伊能図を見ようと思つても、どこにあるか資料がない。そこでまず『伊能忠敬作「日本全図」（伊能図）の所在と現況について』という研究ノートを作りました。製本し、仲間内に配布しました。いい加減な冊子ですが、結構役に立ちました。この冊子を出して、研究者として地図を見せてもらうのです。

○日本学士院 ここは大谷亮吉が大著『伊能忠敬』を書いた時、集めた資料を保存しています。著作は学士院の事業として行つたので、三井財閥に援助を仰ぎ、三井は当時の金で二千円（現在の数億円）を出しました。地図の複写までおこなつており、「日本輿地全図中図」は明治末年に東大にあつた伊能家の控え図を写したもの。計八枚あると

秋岡武次郎氏（地図コレクター）の記録にあります。そのうち一枚のみ軸装してあります。しかしこの地図の写真はなぜか使われていません。また、軸装した関東と中部以外は閲覧させてもらえません。

○東京国立博物館 ここは、たしか三千何百円の特別閲覧料を払って自由に観ることが出来ました。木箱入りのまま中図を出してくれ「勝手に見て下さい」という感じで、実におおらかでした。箱の中には学士院長・菊池大麓博士から、大河内正敏（豊橋藩主家の当主）理化学研究所長宛の借用証書が残っていました。管理なんかしていなかつたということです。今はもう大違いで、色々頼んでも二・三枚しか見せてくれません。

地図の最大は一・五m×二・五m位、重ねて巻いてあって、うまく広げられるわけがない。狭い部屋でやつと拝見しました。

○早稲田大学 神田の一誠堂から早稲田が買つたもの。第二次測量の中図です。旧蔵者は堀田正敦と推測されますが、購入時の所蔵者は教えてもらえません。古書店が言わないので、「針穴あり」です。ちなみに第一次測量で作った地図は「針穴なし」です。針を刺して写す方法は、第一次測量ではまだやつていませんでした。第二次測量から「針穴あり」が出てきます。中図も第二次測量後に提出したのが最初です。本図は堀田正敦へ贈呈したと考えられます。試作品としてやつてみて、作りやすく実用的なので普及したと思いますね。

○静嘉堂文庫 「カナ書き特別小図」が収蔵されています。シーボルトに渡され取り返したという国会図書館のカナ書きの特別小図と同じ図ですが、北海道、樺太がなく、本州四国九州のみを一枚に描きます。針穴あり。来歴不詳です。多分、シーボルト図の控え図でしよう。大概如電（博学で知られる漢学者。『言海』の著者大槻文彦の兄）旧蔵というが、如電がいかにして入手したか興味があります。

静嘉堂文庫へ行つて「見せてくれ」と言つたら「公開していない」と断られましたが、前述した小冊子を見せたらドアを開いてくれました。運よく入れたが、大谷氏がいう伊能図は見つからない。探したらこれまで紹介されていない「力ナ書き特別小図」が出てきました。

○成田山仏教図書館 ここは私が伊能ものを書いて初めて原稿料一円をもらつたところです。「伊能忠敬実測中図」八枚を所蔵。「針穴無し」。伝来不明ですが、おそらく佐倉の堀田家（戦前に整理）から出たのではないかと思われます。大名家は戦後財産を放出した例が多く、その際に伊能図も世間に出来ました。徳島大学は蜂須賀家旧蔵の地図を教育学部で購入しました。岡山藩のものは現在行方不明。津軽藩から出たものは国文学研究博物館に収蔵されています。

成田山では伊能図と同時に『住吉物語』『佐倉城下の図』が収納されましたが、受入記録がないそうです。成田の宇宙堂（今はない）が持つてきただが、当時（戦前・昭和十五年頃）のお金で伊能図・八枚組で一〇〇円位だつたのではと言われています。三点は堀田家の品というだけで、黙つて記録も残さずに引き取つたのでしょうか。

## 二、英國に伊能小図を訪ねて

英國海事博物館には挑戦して門前払いされました。海外視察の途中で英國小図閲覧を思ひたち、ロンドン見物を中止して、通訳を雇つて海事博へとテムズ川を船でグリニッジに向かいました。通訳が学校の先生だと言つて申し入れてくれましたが、一週間前に予約しないとダメと言われる。

仕方がないので学芸員の名前を聞いて帰り、手紙で写真を申し込みました。モノクロだけでカラーはなし。四×五インチのカラーポジを購入。これで地図の存在は確認できました。

その後、もっと大きい八メートルインチのポジをとつてもらいました。グリニッヂには「伊能小図」が蝦夷地・本州東部・西南部と三枚あります。が、当時、日本には一枚しかありませんでした。そこでこのポジは江戸博の図録などでは大活躍しました。

英國國立海事博物館 National Maritime Museum はテムズの河口にあり、ダートマス兵学校の隣、グリニッヂ天文台の隣にあり対岸はドックヤード。地図は英海軍水路部所有で海事博で保管中です。

○後日談 一九九五年八月、江戸博に「伊能忠敬展」を提案、小図の所有者である英國海軍水路部に借用を打診した。このときは断られたが、一九九五年一一月に江戸博開催内定とともに、企画委員の肩書で借用を申込み内諾を得ました。これを朝日新聞が引き継いで江戸博に招請、一三七年ぶりの一時帰国が叶つたわけです。展覧会に先立ち、家内と海事博を訪問し、地図を実見調査しました。「英國小図」には針穴はなかつたですね。幕府旧蔵がはつきりしているのに写本でした。

### 三、フランスに伊能中図を求めて

一九九四年、日経新聞に「仏の民家で日本地図発見」という記事が掲載されることを清水靖夫氏から聞きました。仏人が「家にこんな地図があるが見てほしい」ということでした。

新聞が報道する以前に国土地理院に問い合わせがあり、地理院は地図の存在を知っていたのですが、ちゃんと調べようという気にならなかつたようです。清水氏がこれを新聞社に話したので報道となつた。私は一九九七年になつてこの記事を見ました。

その後の展開は次の通りです。一九九四年の日経新聞の記事を見る→金窪元地理院長ルートでペイレ氏のアドレス判明→手紙を出す→来週はいいよ、と伝言あり→学友の娘さんを通して延期を願う→アポを

とる→自宅のマンション管理組合役員の朝日OB（モスクワ・ボンの元支局長）からパリ支局長清水弟氏を紹介される→支局のアルバイトさんを三万円で通訳に雇う→イブ・ペイレさんの息子夫婦（東京在住）を八方園の食事に誘い事情を聞く→ペイレ博士はグランゼコールの元教授で息子三人、娘一人。自宅はパリの空港に近い場所で一七世紀の家だった。裏庭が奥深かつた。

○フランス中図は最高級の中図 地図を一見し、国会図書館の堀田小図と同じくらい驚きました。「針穴」が完全に残っています。

記述が詳しい。地図記号が充実。特に東博に記入がない天測地星印がある。完成度が高く、八枚揃っている。等々です。中図で完全に揃つているのは東京国立博物館、成田山仏教図書館、ペイレ氏蔵が三大中図と言えるでしょう。

地図が発見された別宅は夫人が親から相続したもの。母親が存命中は建物をいじらず、死去後に整理していく地図を発見したとのことです。いろいろ聞きましたが来歴は不詳。別宅の所有者は、夫人の親は学校の先生、その前は蹄鉄工、その前は公証人だそうです。

保存状態が良好だった理由は屋根裏で通気が良かつたことと、人の手が触れずにいたことでしょう。

帰国後、佐原市教育委員会・香取次長に地図展の開催を提案、香取氏の市長説得で実現しました。イブ・ペイレ氏が東京在住の息子の許へ孫の顔を見に来る旅費の一部を援助し、中図の持参をお願いしました。地図展は金・土・日で入場者数二、三〇〇人を数え大成功。伊能忠敬研究会も発足しました。

○フランス中図はなぜ海を渡つたか 榎本武揚が伊能測量隊員箱田良助の二男であることはご承知ますが、彼が幕府艦隊を率いて函館に脱走したとき、軍事顧問団のフランスのブリュネ大尉らが同行し

ていた。敗戦、そして引き揚げのとき仏人が謝札がわりにもらつて帰つたのではないだろうか。榎本らは蝦夷地の開拓をさせてくれと願つていた。地図を持ち出した可能性は大きいのです。

敗戦後、せめてこの地図を、と言つて渡したのではなかろうか。ブリュネは後に將軍になつたし、團長のシャノワン大尉は陸軍大臣になつてゐる。シャノワンの父は、そう離れていないデジヨンの法律家だつたから、非公式に受け取つた地図を、公証人にそつと預けた可能性はあるでしよう。ミステリーであり、ロマンです。

○ペイレ図ぼろぼろ 展覽会借用のため、ペイレ中図を再見したのは、二〇〇三年五月二一日でした。大きいので近所の集会室に運び破損部を撮影しましたが、地図がボロボロなのにびっくりしました。日本に帰つて當時地理院長だった星埜さんと相談しました。名案がなく、「マスコミで公表したら?」ということにしましたが、たまたま共同通信の橋田氏より電話があり、「何か面白いことは?」というのでこの話をしたところ、すぐ記事にしてくれました。

京都新聞が取り上げて、京都の日本写真印刷より來会し「修復をやらせてくれ」との申し出がありました。ただし版権は欲しいということでした。修復のため地図を持つてペイレ氏が来日し、修理後、展覽会を開催。日本写真の会長から「条件が合えば買い取りたい」という話しがあり、皆様のお世話になつて、売却意志確認、価格交渉の手順を踏み、ギリギリで決着しました。大変よかつたと思つています。

#### 四、第一次伊能ウォーカー

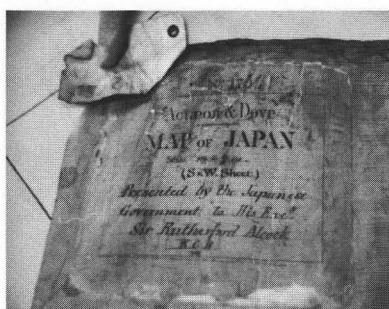
最初の伊能ウォーカーは、ウォーキング協会が独自に企画したものでした。江戸博で伊能忠敬展をすることになつてから、忠敬展が後押し致しました。我々が八月に企画提案したとき、当時の児玉幸多名譽館

長が、よく知つていて推してくれたと聞いています。十一月に内定通知を受けました。

俳優座があとから「実はウチも考へていた」と言つっていましたが、加藤剛が考へていたようです。彼は忠敬ファン。

○英國小図の借用 英国に小図の借用申込みをしたとき、海軍水路部より回答がありました。「複製でよからう?」と。「ダメ。日本には本物が二枚あるのだから」と言つてやる。私の本の出版パーティー席上で、朝日新聞の幹部に「江戸博の目玉が必要。是非借りるべきだ」と話して流れを作りました。後から、条件としてビジネスクラスで付き添い要員二名、引き取りは一名というような話になり、歓迎会もありました。ということで江戸博展の目玉として「グリニッヂ小図」を展示することができました。ところで英國の小図を見に行つたとき、「真つ先に地図の裏に張つてある "Presented by the Japanese Government" というシールを見せられました。返せといつてもダメだぞ」という意味でしようね。

(一)



「グリニッヂ小図」裏のシール



グリニッヂの英國海事博物館



## 伊能塾講座

第三回例会（一月十八日）再録

○講演「学習院大学図書館蔵伊能中図を見直す」講師・斎藤 仁さん

### 一、はじめに

学習院大学図書館蔵「伊能中図」は昭和四四年に元学習院女子部教授堀米次氏によって寄贈されたものであるが、学習院では年一回虫干しをするという方法で一般に公開している。この地図は昭和四六年に元都立大学教授の保柳睦美氏により「特殊中図」として紹介された。この地図にどんな特徴があり、何故に「特殊」といわれて別格扱いをされるのか、これからお話ししていきたい。

学習院の書庫には明治初年に購入した外国地図が二〇〇～三〇〇本あり旧満州の戦略的手描地図など焼けないで残った面白い掛地図もある。この「特殊中図」は八幅あり、もと陸軍陸地測量部が所蔵。陸軍の目録に出てるもので、陸地測量部の解散に際し、焼却寸前のものを友人・山北半次郎氏から堀米氏がもらい受け、死後分散することを危惧した堀米氏の夫人の寄贈により学習院所蔵となつたものである。現在は軸装して桐の箱に入れ、図書館の倉庫へ保管している。

### 二、学習院「伊能中図」の内容と特徴

八舗のうち、一～五は文化元年上呈図である。上呈の時、三枚（北海道、東北、中部）だったものを、学習院が東北と中部をそれぞれ北と南に分けて五枚とした。六は近畿で凡例が貼つてあり、仕上がりがきれいである。七は東北地方で針穴は見えない。地名の載せ方が細密であるという特殊性があり、普通の伊能図ではない。近畿の部の地図上に「陸軍」とはんこが押してあるが、それをまた消してある。もと

### 三、補足説明—渡辺一郎さん

この「学習院中図」は謎だらけの地図。堀田摶津守と関係があるかもしれない。戦後のドサクサに陸軍が大名家から借りて写したが、その途中でもつと良いのが見つかつたので、やめてしまつたのか。いずれ大名道具か旗本道具であることは間違いないが、借りたものを返さなかつたのは不名誉なことなので陸軍に秘蔵されてきた。ペイレ図や領主名の入つていらない中図が宮城県図書館にあるが、米国議会図書館

もと大名家にあつたものが陸地測量部に貸し出されたものかとも考えられるが、真相はわからぬ。知行地、大名領が実に丁寧に書き込まれている。保柳氏は「江戸後期の字だ」としているが、しかし何時、どんな目的で書き込まれたかは不明である。

以前、中学生にこの図を使って授業をした際に想定外の指摘

をされた。下田沖の島々に女

子の名前が並んでいるというのを良く見ると、たしかに「サク子、ヨシ子・・・」と女性の名前が並んでいる。これは「サクネ島、ヨシネ島」と読むのであるが、中学生の見方は面白い。

イタリア伊能図は甲南大学の久武哲也教授（残念なことに昨年死去された）が平成七年にイタリア地理学協会で発見したもので、学習院大の伊能中図と地名の並び方が同じで全てカナ書きとなつていて。



貴重書コレクション

学習院大学図書館蔵 伊能図中図について

斎藤 仁(学習院名誉教授)

- はじめに / 2. 学習院伊能図中図の内容 / 3. 学習院伊能図の特徴 / 4. 明治以降 /
- 終わりに / 6. 文献 /

1. はじめに

学習院大学図書館に保管されている伊能図(中図)は、昭和46(1971)年、保柳睦美氏が「特殊中図」として紹介されたものである。学習院伊能図は8舗あり、昭和44年4月、元学習院女子部教授堀米次氏の寄贈によるものである。同氏は、これを昭和20年8月、終戦による陸地測量部の解散に際し、焼却寸前のものを友人、山北半次郎氏から貰い受け入手されたとのことである。学習院では早速、装丁を改め、裏打ちし軸装し、桐の外箱を新調し保存の完全をはかってきた。

2. 学習院伊能図中図の内容

幕府上程の時期

年	項番	地名	縦 × 横(cm)
文化元(1804)年	一	蝦夷地(東南部)	119 × 198
	二	陸奥・出羽(北部)	107 × 184
	三	陸奥・出羽(南部)・越後・佐渡	100 × 184
	四	下野・上野・常陸・下総・武藏 相模・伊豆	113 × 178
	五	能登・越中・信濃・加賀・越前 若狭・尾張・駿河・参河・遠江	123 × 181
文化4(1807)年	六	参河・尾張・伊勢・近江・伊賀 大和・紀伊・若狭・和泉・山城 摂津・丹後・播磨・但馬	120 × 170
	七	因幡・伯耆・出雲・石見・備前 備後・備中・安芸・周防・長門	125 × 154
文化6(1809)年	八	阿波・讃岐・土佐・伊予	99 × 150

以上の8舗で九州の部を欠いている。

九州測量は第七次文化八(1811)年・第八次 文化十二(1815)年で 学習院図はその前で原図の制作時期は四国測量後のものと考えられる。

3. 学習院伊能図の特徴

文化元年の沿海地図中図で現在知られているものは、他に伊能記念館、国立史料館、徳島大学付属図書館にしかないだけに貴重なものである。学習院中図は江戸時代後期の写本として考えるとしても、針穴は見つからない(裏打ち装丁し直しのため分からなくなつたかは疑問である)。

普通は沿海地図の構成は、蝦夷・奥州、中部・関東であるが、学習院中図は奥州を南北に2分して4舗構成になっている。余白には里程標が示され、全体をそのまま2分してある。蝦夷地の部(一)欄外には高橋景保の識語が載せてある。

文化元年の中部の部(五)と文化四年の畿内の部(六)との接合記号のコンパスローズが内陸部におかれ、尾張(名古屋)付近から知多・渥美半島が重複して描かれている。とくに浜名湖の描写の詳細に差がはっきり出ている。文化四年近畿の部(六)は平野部にピンク系の彩色が用いられ、美しさが出ている。

学習院図の最大の特徴としてあげられるのが、中図でありながら大図(大絵図)の記載内容が記されていることである。側線に沿う町村名はもちろんのこと、幕府名・大名領・知行所・社寺領など実際にこまかに細字で記入されている。東大総合研究博物館の大和地方の部分を比較してみると分かる。この見事な細字(保柳氏は、専門家の意見によるとこの書法は江戸後期のものと推定)で、技術的にも時間的にもこんな細かな記入事項を模写するのは、よほど例外的な必要性があり、諸条件が揃ってできることであろう。例えば、全国の所領を総覧してみたいため、大図では大きすぎるものを編集してみた大きな文字の国名、細密なはずの方位線、コンパスローズなどに粗雑な描き方の箇所があるのも目的が違っていたからだろうか。

近畿の部(六)の端には、沿海地図の凡例、伊能勘解由謹図の識そのままに写した別紙が貼り付けてあり、末尾には安政五年六月、熊谷市兵衛写とある。地図模写年代はもう少し古いと考えられるが、余白と便利さのため貼り付けたのであろう。

中国の部(七)は、九州測量以前のため中国地方の内陸部は空白であり、ややさびしい図となっている。瀬戸内海側の島嶼の間隙をぬって境界を設けたので、図の(八)との接合記号のコンパスローズが貧弱ではあるが描かれている。

#### 4. 明治以降

学習院中図8舗には全て「陸軍文庫」の蔵書印があり、一部に消そうとした跡が残っているものもある。陸軍文庫へどのような経路で入ったか分からぬが、陸地測量部にあったのは確かである。先述したように、堀教授が陸地測量部の解散とともに友人(同郷)から譲り受けたことになっている。

関東の部(三)には、鉛筆で精密ではないが方眼線が記されていて、いちばん使用したのであろうかすれた汚れが目立っている。他にも中国の部(七)の一部と四国(八)は、伊予北部の松山・今治・石鎚山にかけて、かなり細かな方眼が集中的に記されている。これも決して精密ではないが、明治以降の模写の方法で、この伊能中図より模写しようと試みた証拠である。

当時の動きとしては、陸地測量部で三角測量を開始したのが明治16(1883)年であり、それまで当面の必要に応ずるには伊能図に頼るほかはないと考え、明治5年に伊能家から大・中・小図の副本その他の資料を借り出している(当時の工部省測量司の名で借用証書が提出されている)。そして内容の不足部分は天保図などで補い、模写をはじめている。明治11~12年に伊能中図と同一縮尺の軍管図、第1~6軍管区ごとに編修している。しかしこれはもともと陸軍の応急使用のためのものであり、一般社会の利用に供するものではなかったので、明治17年から軍管図よりさらに精密な輒製20万分の1地図一色刷の作製にかかっている。一方、海軍水路部でも伊能図を内務省地理局から借り出し模写し、その精密な海岸線に基づいて、海図の作製をはじめている。本図も写図の候補であったかもしれない。

#### 5. おわりに

以上のような伊能図の利用と貸借関係はよく分からぬが、学習院中図が戦前の陸地測量部にあったことはおそらく、どこかの大名家にあったものが、明治年間に貸し出され、そのまま返却されずに置かれ、終戦直後の混乱により焼却されようとしたものであろう。

甲南大学の久武哲也教授が平成7(1995)年12月、イタリア地理学協会所蔵の日本地図コレクションを調査された際、伊能図を発見され、その構成が学習院中図に似ていることから、本特集関係者の渡辺一郎、清水靖夫両氏とともに来院調査された。その結果、図幅構成はピッタリ同じであった。写真照合では、地名が、位置はそのままで、国名、郡名まで全てカナに置き換えられていた。学習院中図と原図を同じくする伊能図のカナ書き版がイタリアにあったということで興味深い。

### 文 献

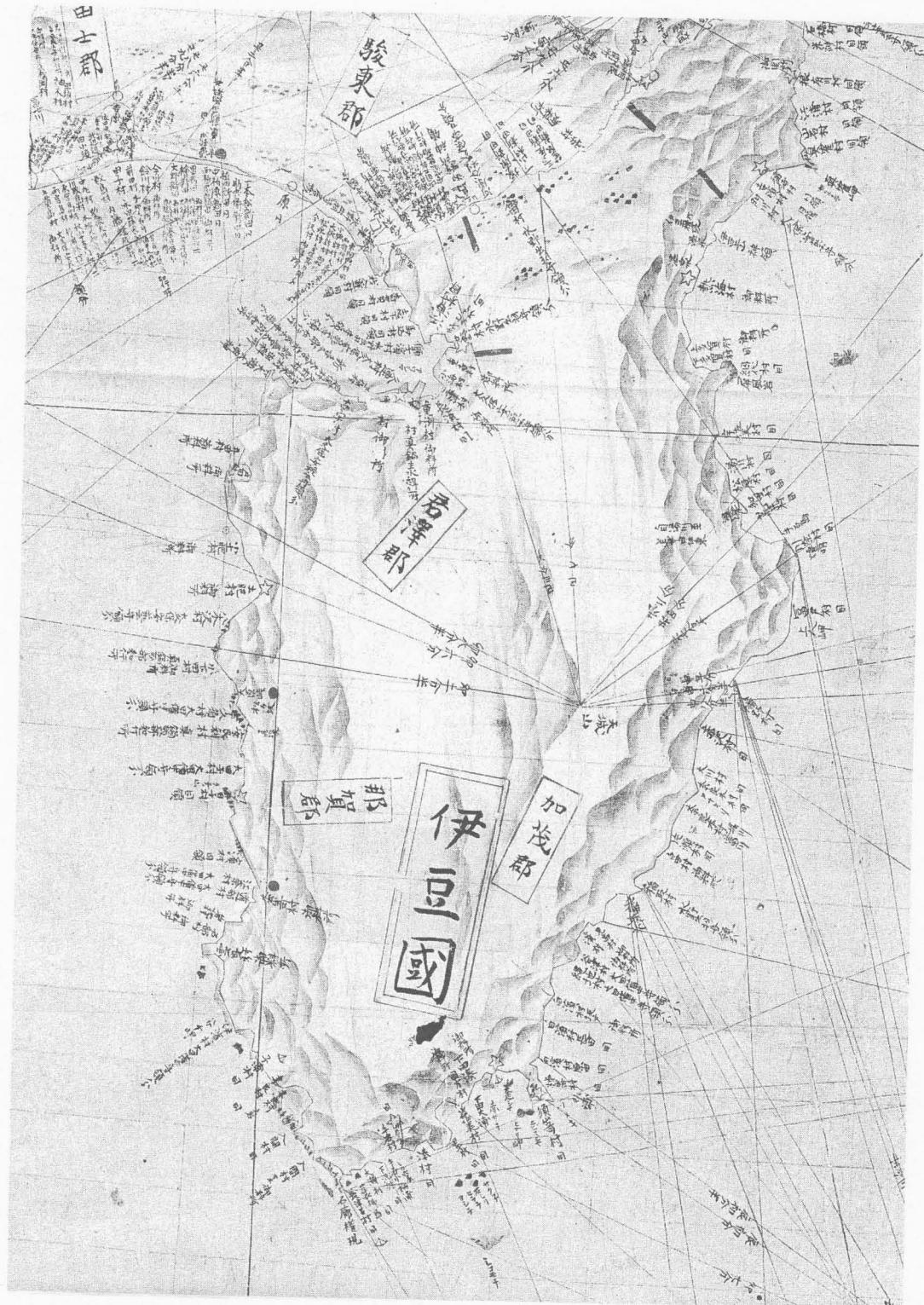
- ・保柳 瞳美. 伊能忠敬の科学的業績. 古今書院(1974)
- ・斎藤 仁. 伊能図について: 学習院所蔵伊能中図. 地理の友. 東京都私立地理教育研究会(1974)
- ・斎藤 仁. 大日本沿海実測図(伊能図)について. 学習院女子部論叢(1993)
- ・斎藤 仁. 「伊能図のたどった運命」. 歴史読本(1994)
- ・斎藤 仁. 私は学習院大学図書館に眠っている「伊能忠敬図」です. 学習院広報(1994)
- ・斎藤 仁. 謎を秘めた学習院伊能忠敬測量の日本図: イタリアで発見された図. 学習院広報(1997)
- ・渡辺 一郎. 学習院大学図書館所蔵伊能中図について. 月刊古地図研究, vol.30(1997)
- ・斎藤 仁, 渡辺 一郎. 忠敬と伊能図. 東京都江戸東京博物館図録. アワ・プランニング出版(1998)
- ・斎藤 仁・正井 泰夫. 「地図の達人」(学習用ソフトウェア). 三菱総合研究所(1998)
- ・斎藤 仁. 大日本沿海実測図(伊能図)について(2). 学習院女子部論叢(1999)

や成田山図書館の伊能図と同じで出自が不明。何か事情があると思う。鈴木純子さんが愛用していた国会図書館所蔵の堀田撰津守の地図は戦後出た例で、終戦直後に運び込まれた。学習院の伊能図は斎藤先生が番人だから先生が一言言ええばOK、簡単に借りられる? 学習院の元学長・小倉芳彦先生は「地図を広げると傷むから大切に保管するように」と言っていた。現在は間に和紙を入れてくるく巻いて桐箱へ納めているが、白手袋をはめて扱うようしている。

蝦夷地と北東北が欠けているのは、仙台藩が出兵したときに持ち出したかと考えられる。仙台図のほうが色彩が明るいが、やや漫画チック。学習院図の方が落ち着いていて良い図だと思う。

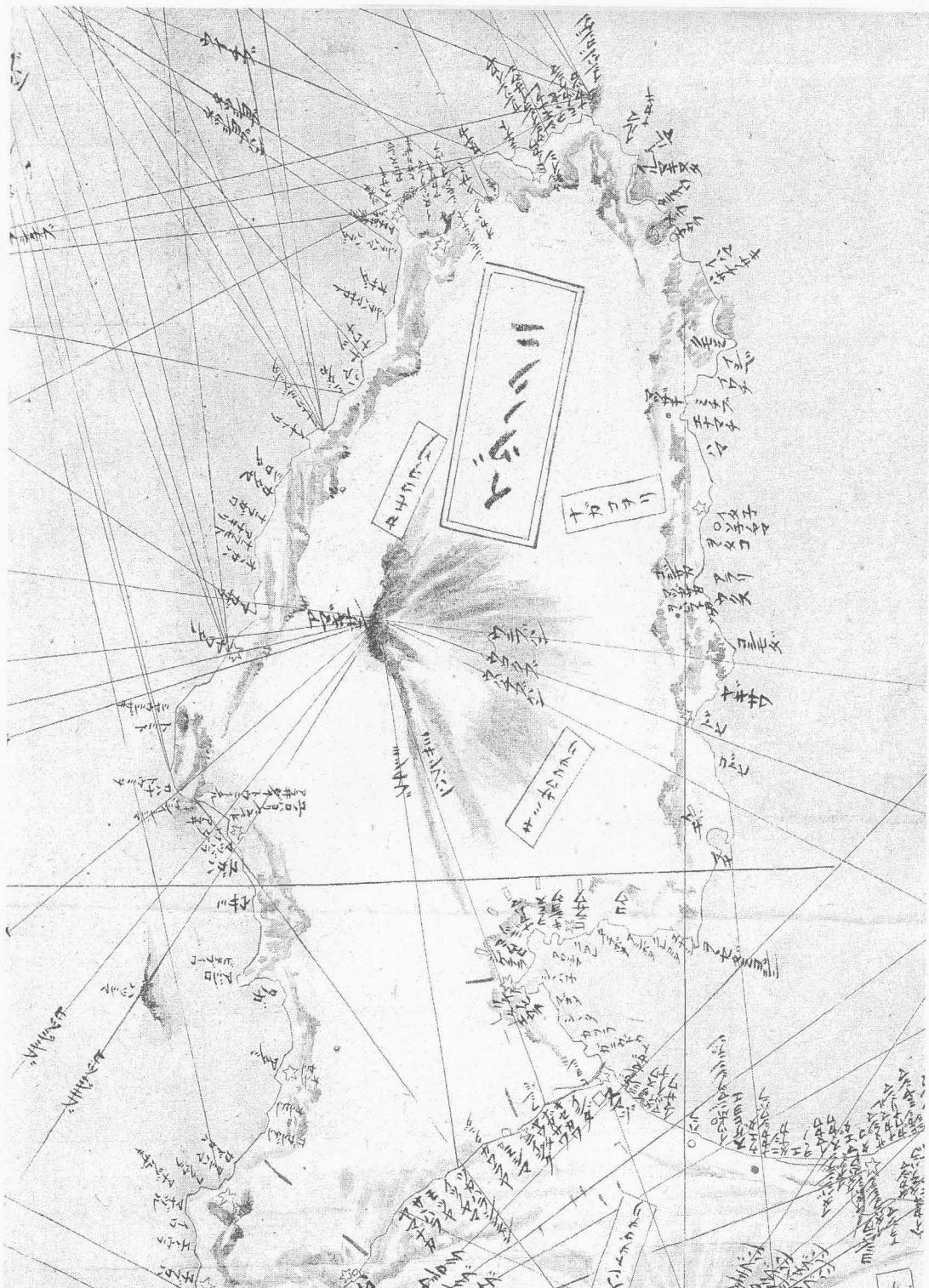
文化元年中図を三枚に写したのは、地図ができ上がるまでに十数年かかっているので、待ちきれなかつたのかも知れない。(平戸藩の場合は入手までに十数年。頼んだ藩主はすでに死去していた)。「今あるところまでいいから作つてよ」ということだったのではないか。

イタリア中図は学習院中図が原図だろう。久武氏から写真を見せられたときに、「あ、これは学習院のカナ版だ!」と思いましたね。それでイタリアに見に行つた。このイタリア図だけがまだ来日していない。イタリアの初代駐日総領事ロベッキが日本人に写させて持ち帰つたのだが、写した者が絵師というほどの技量ではないので、写図・写本というレベルではない。忠実に写したというわけでもないから、地図としてはなく極東事情として持ち帰つたのだろう。なお、イタリア地理学協会はローマのコロッセオ近くの公園にある立派な建物である。



学習院大学図書館所蔵 伊能中図

阿尔丁地理学研究所 伊能中图



## 九州支部だより

### 平成二〇年度九州支部研究旅行

#### || 「対馬・元禄国絵図」を見学 ||

中富道利

（なかとみ みちとし・九州支部）

博物館には長崎奉行所も復元されていて（奉行所跡に博物館が建てられた？）日曜日のためボランティアによるお白洲の裁きの寸劇が行われていました。犯人役の人は石のゴロゴロした白洲のむしろに座つてお裁きを受けていましたが、かわいそうになりました。

九州支部の毎年の行事として行っている伊能図ゆかりの地を訪ねる旅を、今年は長崎歴史文化博物館で開催されている「宝の島・対馬展」に展示されている「対馬・元禄国絵図」を見学することになりました。

平成二〇年一〇月一二日（日）一行七名は長崎駅で集合し、時間の関係で丸山周辺を散策することになりました。以前長崎で勤務されたことのある野田さんの案内で、駅前から市電に乗り、思案橋で下車して丸山の花街の坂道を上り下りしながら散策しました。長崎検番も健在で二階の手すりに十九名の名入り提灯が下がっており、いまだ芸者さんが現役で頑張っているようです。「なかにし礼」の「長崎ぶらぶら節」の文学碑（本人の直筆のこと）などもありました。卓袱料理で有名な「浜勝」でささやかな昼食をとりました。

食事が終わってタクシーで長崎歴史文化博物館へむかいました。

博物館では学芸員の案内で館内をつぶさに見学し対馬の文化財について説明を受けました。お目当ての国絵図（タテ三七四・六センチ、ヨコ一七五・〇センチ）は初公開とのことでしたが、その大きさに圧倒されました。あまりに大きいため対馬では展示する場所がなく、公開していないようです。伊能図以前にこのような精密地図を作った対馬藩の測量技術の高さには感心しました。



昼食 「浜勝」にて

参加者（後列 左から）石川 宮地 松尾（紀） 平川  
(前列 左から) 井上 中富 野田

お知らせ

## 例会案内・例会報告 ～第三回・第四回～

### ■第三回例会（一月例会）一月十八日（日）実施

○講演「伊能中図学習院図を見直す」 講師・齋藤 仁さん

（講演内容は六四頁以下に掲載されています）

◇今年最初の例会には十六名の会員の方がお越しくださいました。

講演は齋藤仁さんが「伊能中図学習院

図を見直す」と題して大型写真を持ち込み説明していただきました。

イタリア地理学協会蔵の中図が学習院大学蔵のものと地名記載の並び方

が似ていること、学習院図の下田沖にある島名が「ヨシ子・ヒラ子・サク子」と女性の名で記載されることを指摘された。終了後は富岡八幡宮を参拝、銅像を見つめ、ミニ新年会を行った。

（例会担当・新沢義博）



### ■第四回例会（三月例会）三月八日（日）実施

#### ○展示見学「静嘉堂文庫の古典籍 第7回 古地図の楽しみー江戸時代

の町を歩くー伊能図「力ナ書き特別小図」ほか（講演なし）

◇第四回例会には十四名が参加。シーボルト所持本の副本として作成された可能性のある『力ナ書き特別小図』は一舗構成、大槻家の蔵。現存する特別小図は数枚のみ。司書の成沢さんの案内で一時間三〇分の見学。今後は例会の一環として記念碑探訪もしていきたい。（新沢）

## ～次回例会のご案内～ ■第五回例会

○日時・会場・内容（未定） 決まり次第お知らせします。

## 二〇〇九年度 総会のご案内

○日時 二〇〇九年七月五日（日）十三時三〇分（予定）

○会場 富岡八幡宮 ○三一三六四二一一三一五

（東京都江東区富岡一一〇一三）

【別途通知参照】

## 完全復元伊能図全国巡回フロア展 in 東京（深川）

伊能測量一一〇年を機に各地で計画されている伊能忠敬ゆかりのウオーキング。これと並行して、原寸大に製作した伊能大図・中図・小図の複製を一堂に展示する巡回フロア展を各都道府県で開催します。まず全国に先駆け、忠敬ゆかりの深川で左記の要領で開催します。

【日時】4月11日（土）・12日（日）9～17時（入場16時30分）  
※一般内覧会 4月9日（木）時間注意・10日（金）9～18時

【入場】開催協賛券 大人500円 小中学生100円

【会場】江東区深川スポーツセンター（江東区越中島一ー一八）

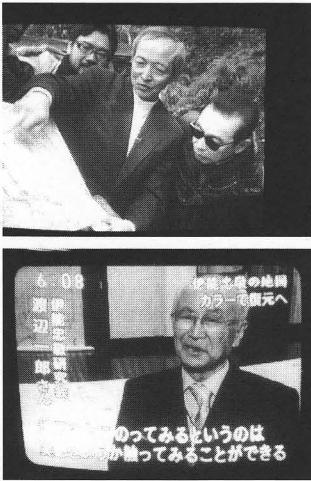
【交通】地下鉄東西線門前仲町徒歩10分

【主催】伊能忠敬研究会【共催】江東区・(社)日本ウォーキング協会

### ◆伊能研究会内覧会のお知らせ（予定）

4月10日（金）14時 フロア展会場入口付近集合

## 日々の話題



【概要紹介】富岡八幡宮の伊能忠敬の像は旅の  
復元・全国巡回展示が取り上げられました。

■TV番組・二月二七日NHK「そのとき歴史が  
動いた—江戸の世に挑んだ男たち—伊能忠敬・  
間宮林蔵・ジョン万次郎」  
が放送されました。

■TV出演 芳賀啓さん  
が二月二七日深夜放送テ  
レビ朝日「タモリ俱楽部」  
(テーマ・桃栗三年 崖

一〇万年 国分寺崖線を  
ゆく!)に出演しました。

■TV報道 渡辺一郎さ

んが一月九日のニュース番組に登場しました。

■新聞記事 『読売新聞』一月四日「編集手帳」  
で伊能忠敬の生涯と仕事ならびに「伊能大図」  
の復元・全国巡回展示が取り上げられました。



■TV番組・二月二七日NHK「そのとき歴史が  
動いた—江戸の世に挑んだ男たち—伊能忠敬・  
間宮林蔵・ジョン万次郎」  
が放送されました。

■TV出演 芳賀啓さん  
が二月二七日深夜放送テ  
レビ朝日「タモリ俱楽部」  
(テーマ・桃栗三年 崖

一〇万年 国分寺崖線を  
ゆく!)に出演しました。

■TV報道 渡辺一郎さ

んが一月九日のニュース番組に登場しました。

■新聞記事 『読売新聞』一月四日「編集手帳」  
で伊能忠敬の生涯と仕事ならびに「伊能大図」  
の復元・全国巡回展示が取り上げられました。

第一歩を大きく踏み出している。その時、忠敬  
55歳。現代なら会社を退職した後の60代な  
ばあたりで新たな挑戦を開始し、70歳前後で世  
界に飛び出す、といった感じだろう。「伊能大図」  
を復元して全国で巡回展示する準備が進んでい  
る。昨年末に一部がまず富岡八幡宮でお披露目  
された。今年二〇〇九年は団塊世代の全員が還  
暦を越えるが、まだまだ老け込む時ではない。

第二の人生で後世に残る仕事を成した代表例・  
伊能忠敬の道のりは4000万歩にも及ぶ。  
■「忠敬」の掛軸 会員の方が「忠敬書」の銘の  
ある掛け軸を入手、二月某日東京・世田谷の伊能  
家で鑑定会が開かれました。果たして忠敬先生  
の真筆か?しかし残念ながら「落款その他の状  
況から、伊能忠敬とは別人のもの」との判定で  
した。当時、「忠敬」はよくある名前だったとか。  
の復元・全国巡回展示が取り上げられました。

### ■伊能忠敬記念館

☎ 0478・54・1118

#### ◇第60回収蔵品展

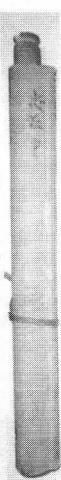
期間 1月20日(火)～3月22日(日)  
展示品 伊能図・関東・中国地方、奈良県  
付近、半円方位盤など

#### ◇第61回収蔵品展

期間 3月24日(火)～5月24日(日)  
展示品 伊能図・琵琶湖・厳島・佐渡・携  
帯用磁石など

#### ◇『伊能家のおひなさま展』

期間 2月7日(土)～3月22日(日)  
展示品 伊能家に伝わるおひなさま2組  
(同時期に佐原市内各家々でもお雛様を公  
開します。古き良き街並みと合わせてご覧  
下さい。)



### お知らせ

■静嘉堂文庫美術館03・3700・0007

◇「静嘉堂文庫の古典籍 第7回 古地図の樂  
しみ—江戸時代の町を歩く—」  
展示品 伊能図『カナ書き特別小図』ほか



### 受贈

2009年2月14日(土)～3月22日(日)  
■八王子夢美術館☎ 042・621・6777  
◇「市民公募夢美エンナーレ入選作品展」  
2009年3月4日(水)～3月26日(木)



### 受贈

■平成20年度企画展示図録『利根川下流域の  
和算文化』千葉県中央博物館大利根分館刊  
首藤郁夫さんより御恵贈いただきました。

## 伊能忠敬研究会御案内

一、本会は伊能忠敬に関心をお持ちの方はどなたでも入会できます。

二、つぎのような活動を行っております。

《会報》—原稿締切と発行予定—

- ①会報の発行  
発表誌 原則として年四回  
第56号締切 3月末 発行 5月
- ②例会・見学会の開催  
第57号締切 6月末 発行 8月
- ③忠敬関連イベントの主催または共催  
第58号締切 9月末 発行 11月
- ④その他付帯する事業  
第59号締切 12月末 発行 2月

「伊能忠敬研究会「資料室」…現存する伊能図の所在一覧、アメリカカ伊能大図など地図および史料。(担当・坂本幹事)  
<http://members.jcom.home.ne.jp/t-sakamo/>  
<http://www.trim.or.jp/~koko>

### 編集後記

三、入会方法等 入会を希望される方は郵便振替で住所、氏名、電話番号、通信欄に専門、趣味、入会の動機、御意見などを書き添えて、入会金四千円、年会費六千円、合計一萬円を左記にお送り下さい。会計年度は、四月から翌年三月ですが、年度途中より御入会の場合には、当該年度の会報のバックナンバーをお送りします。

四、事務局所在地 (04年8月事務所が新宿区下宮比町から移転)  
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6

電話・FAX 03-3466-0745  
事務局メール [junko-sz@jcom.home.ne.jp](mailto:junko-sz@jcom.home.ne.jp)

(07年8月よりアドレスが変わりました)

### 郵便振替口座 〇〇一五〇一六一〇七二八六一〇

投稿規定 会員の皆様から会報の原稿を募集しております。一回の掲載は、原則として2~8頁です。提出原稿は返却しません。採否は編集部にご一任下さい。手書き、CD、メール添付可。(FD要相談)一頁は二段組31字×26行(400字詰用紙4枚分)、三段組20字×30行です。文字は9ポイントを使用。タイトルは5行分、写真、図表等(返却します)添付可。話題、情報、近況などのお便りもお待ちしています。

◇忠敬先生はどんな性格だったか。成し遂げた偉業と肖像画からはやはり「謹厳」「根気強い」など、超人的な精神力の持ち主のイメージが強い。◇しかし「伊能は『存じの性格で、そことなで安心ができない。』と師の高橋至時は手紙に書き、昨年話題になつた『石井記録』では「やたら元気でちよつとほら吹き」「意外にキレやすい気分屋」と、謹厳とは異なる人間像が垣間見える。◇杉本苑子『江戸散華』(昭53毎日新聞社刊)所収の隨筆『愉快なじいさま伊能忠敬』は三〇年以上も前の作品であるが、忠敬の人間的な面を看破していく異色である。◇杉本「みずから『樂天斎』と称していたように、忠敬は一面、ユーモラスなじいさまだった。包容力を持ち、だれからも慕われ、したしまれた。(中略)生涯をとじるまで、みずみずしい活動をやめなかつたその愛すべき人間像に、私は心からなる拍手を贈りたい。」◇忠敬先生の偉業を生み出したのは「謹厳さ」よりむしろ並外れた「明朗闊達ぶり」の方だったかもしれない。(M)

## 伊能忠敬研究会のホームページ

「伊能忠敬研究会」公式ホームページ

<http://inoh-tadaka.org/> (休止中)

伊能忠敬研究会「資料室」…現存する伊能図の所在一覧、アメリカカ伊能大図など地図および史料。(担当・坂本幹事)

発表誌

原則として年四回

例会・見学会の開催

忠敬関連イベントの主催または共催

その他付帯する事業

第56号締切 3月末 発行 5月

第57号締切 6月末 発行 8月

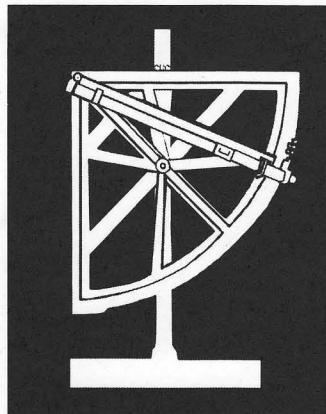
第58号締切 9月末 発行 11月

第59号締切 12月末 発行 2月

# THE INOH TADATAKA JOURNAL

## STUDIES OF INOH'S MAP AND WRITINGS

No.55 2009



### TOPICS I

Historic Spots about Inoh Tadataka (5)  
Place Names Related to the Year of Ox  
Tadataka's New Year's Letter  
Exhibition of "The Large-Scale Inoh Maps" in Tomioka Hachimangu  
"The 10th Inoh Walk Anniversary" was Held in Tokyo  
New Materials about Inoh Survey was Found in Gifu

### TOPICS II

Report of Study Trip to "Mitarai, Nakajima, Kure"  
Place Names and Landscapes in "Inoh Daizu Soran" (9)

### FROM VISITORS' REGESTERS

### ARTICLES

Inoh Survey Team's Lodging in Choshi was Soy Sauce Brewery  
Study of Inoh Tadataka (5)  
Revision of Kan Chazan's Poem  
Kashiwagi Family Documents Deposited with National Museum in Sakura  
The Separate-volume of Tadataka's Survey Diary

### INOH-JUKU

People of the Inoh Family  
My History of Discovery of Inoh Maps  
"The Medium-Scale Inoh Maps" in Gakushuin University

### BRANCH REPORT

Report of Kyushu Branch Study Trip in Fiscal Year 2008  
MEETING ROOM

Regular Meeting Guide and Report  
Letters from Members Daily Topics and Informations

Inoue Tatsuo	1
Saito Hitoshi	2
Editorial Department	3
Editorial Department	4
Editorial Department	5
Editorial Department	6
Yanoh Akira	9
Hoshino Yoshihisa	12
Inoh Yoko	24

Sakuma Tatsuo	26
Ishiiya Haruka	30
Editorial Department	38
Kashiwagi Takao	39
Sakuma Tatsuo	48

Inoh Yoko	56
Watanabe Ichiro	60
Saito Hitoshi	64

Nakatomi Michitoshi	70
---------------------	----

Shinzawa Yoshihiro	71
Editorial Department	72

Edited and Published  
by  
THE INOH TADATAKA SOCIETY